

一雇ハ給仕小使等ノ類ヲ除クノ外事ヲ雇テ總テ算入スヘシ

表七十二第 報年

種別	前年ヨリ越		新タニ救助ヲ受ル者		死亡		停止		本年未現在救助金
	男	女	男	女	男	女	男	女	
老衰									
幼疾									
弱病									
合計									

一救助金ノ欄ニハ救助米代金ヲ記入スヘシ

表八十二第 報年

費途	前年ヨリ越		新タニ養育ヲ受ル者		養育ヲ廢セシ者		本年未現在		養育費合計
	男	女	男	女	男	女	男	女	
官費									
私費									
合計									

一官費人員ノ欄ニハ専ラ官費養育ニ係ルモノ及公費_{地方稅區}ナリテ官費ヲ補助スル所ノモノヲ合記スヘシ

一新タニ養育セシ者ノ欄ニハ拾ヒ上ケシ者及他管ヨリ轉入若シクハ官費ヨリ私費私費ヨリ官費ニ移リシ者等ヲ掲ケ養育ヲ廢セシ者ハ滿十三年ヲ過キシ者又ハ他人ノ養子

女トナリシ者_{養育費ヲ受ケル者ヲ除ク}及他管へ轉出又ハ死亡又ハ私費トナリテ官費ヲ止メ官費トナリテ私費ヲ止メシ等ノ者ヲ掲クヘシ

一嬰兒ニ準シ養育料ヲ支給セシ者アルトキハ總テ本表へ合記スヘシ

表九十二第 報年

署名	警察本部(東京)		某警察署		某分署		某分署		合計
	町	町	町	町	町	町	町		
所在ノ國郡區									
町村名									
本部へ									
警察署へ									
郡區名町									
町村數									
派出所又ハ交									
警察官巡査台計									

表十三第 報年

救護及盜難 〔明治何年〕	救	種	日	警察官	人民	官吏	協	計	劫	名
				民	力	合	計			
		盜難ニ罹ラントセシ		強盜ニ遭ヒシ	強盜ニ遭ヒシ	強盜ニ遭ヒシ	強盜ニ遭ヒシ			
		殺サレントセシ人及傷セラレシ人		強盜ニ遭ヒシ	強盜ニ遭ヒシ	強盜ニ遭ヒシ	強盜ニ遭ヒシ			
		變死セントセシ人及傷セシ人		強盜ニ遭ヒシ	強盜ニ遭ヒシ	強盜ニ遭ヒシ	強盜ニ遭ヒシ			
		失火放火雷火不審火及延焼ヲ消止メシ人		強盜ニ遭ヒシ	強盜ニ遭ヒシ	強盜ニ遭ヒシ	強盜ニ遭ヒシ			
		送ニテ發病セシ人		強盜ニ遭ヒシ	強盜ニ遭ヒシ	強盜ニ遭ヒシ	強盜ニ遭ヒシ			
		送ニテ發病セシ人		強盜ニ遭ヒシ	強盜ニ遭ヒシ	強盜ニ遭ヒシ	強盜ニ遭ヒシ			

第三十六表へ掲ケシ者ノ内救護ヲ受ケシ者アルトキハ上欄第二項又ハ第三項へモ記入スヘシ

一強盜ニ遭ヒシ家ノ欄ニハ住家船ノ欄ニハ航行又ハ碇泊中ニ在テ強盜ニ遭ヒタル數ヲ記入シ人ノ欄ニハ途上等ニテ財物ヲ強奪セラレシ人即チ追劔ニ遭ヒシ數ヲ記入スヘシ

一竊盜ニ遭ヒシ船ノ欄ニハ船中又家ノ欄ニハ住家ハ勿論田野山林若クハ屋外ニ置キタル物品ヲ竊盜セラレシ數ヲ登記シ竊盜ニ遭ヒシ人ノ欄ニハ拘摸ニ遭ヒシ人及店舗停車場若クハ渡船等ニ於テ財物ヲ盜マレシ人ヲ登記スヘシ

一憲兵ヲ置カレタル地方ニ於テハ互ニ重複ヲ防クカ爲メ事實ノ引繼キヲ受ケタル方ニ於テ登記シ引繼キヲ爲シタル事實ハ登記ヲ要セス但警察ニ關スル諸表之ニ同シ

表十三第 報年

就捕犯罪人及違警罪犯諸犯則人員 〔明治何年〕	罪	狀	現行犯	准現行犯	非現行犯	自	合	計
			男	女	男	女	男	女
國事ニ關ス								
憲法規則ヲ犯ス								
貨幣偽造ニ關ス								
人ヲ殺傷ス								
竊盜・拘摸ヲ除ク								
強盜								
詐欺取財								
放火								
其他ノ犯罪者								
賭博ニ關ス								
違警罪ヲ犯ス								
犯則者 〔登記ニ係ル 其他〕								
總計								

一本表ハ警察官吏ニ於テ取扱ヒタル人員ヲ總テ記入スヘキモノトス故ニ假令取調ノ上放免シタル者ト雖トモ一旦取扱タル人員ハ之ヲ省クヘカラス

一違警罪ハ處斷人員ヲ掲クヘシ

一逮捕上甲乙ノ地方ニ相牽連スル場合ハ犯人ノ捕ニ就キシ地方ニ於テ登記スルモノトス

一二罪以上俱發ノ者アルモノ一罪ノ方ニノミ登記スヘシ

報年 表五十三第														
合	不	其	餓	途	歌	火	難	海	洪	過	殺			其
											計	計	計	
計	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同

報年 表四十三第													
合	十	十	九	八	七	六	五	四	三	二	一	月	火災 〔明治何年〕
計	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同

一軒數ハ住家ナレハ一竈ヲ以テ一軒ト算シ學校病院寺院等ナレハ一構ヲ以テ一軒ト算
ス可シ但一構ノ内一棟又ハ二棟燒失セシモ尙一軒ニ算ス可シ

自	科	日	變死及棄兒〔明治何年〕	
			男	女
殺	入	一月		
刃	水	二月		
物	シ	三月		
ニ	テ	四月		
テ	テ	五月		
テ	テ	六月		
テ	テ	七月		
テ	テ	八月		
テ	テ	九月		
テ	テ	十月		
テ	テ	十一月		
テ	テ	十二月		
テ	テ	合計		

一書記ニシテ看守長ヲ兼テ又ハ看守長ニシテ書記ヲ兼ヌルノ類ハ各兼務ノ方ヲ朱書ス
ハシ但屬官又ハ警部等ヨリ監獄吏ヲ兼ヌル者ノ數モ亦別行ニ朱書シ其上ニ×印ヲ付
スヘシ

表九十三第

報年		未決者ノ出入人員 (明治何年)		廳名	
本年間ノ出	本年間ノ入	男	女	合計	合計
放逐者 死刑以下受刑者 逃走者 死亡者 責任及保釋者 他管へ移送者 計	前年ヨリ越人員 再入者 他管ヨリ押送者 計				
合計	合計				

本年末日ノ現員
在監延人員
罹病延人員

一禁錮ヲ減シテ拘留ニ處セラレタル者上訴シ其未決拘禁中ニ刑罰經過シ刑ノ執行ヲ
爲ス能ハスシテ放免セシモノ、如キハ徒刑以下受刑ノ者ノ項ニ記入シテ第四十
第四十一第四十二ノ三表ヘモ記載スヘシ但第四十表ヘ記載スルトキハ表尾ニ男女ヲ
區別シ其旨ヲ記スヘシ

表十四第

報年		已決囚ノ出入人員 (明治何年)		廳名	
本年間ノ出	本年間ノ入	男	女	合計	合計
満期放免者 特赦ヲ得シ者 非常上告ニヨリ 無罪ニナリシ者 假出獄者 懲罰假免者 同族假免者 收賂放免者 他管へ移送者 計	前年ヨリ越人員 新ニ刑ヲ受ケシ 者 再入者 他管ヨリ押送者 計				
合計	合計				

報年 表二十四第

何	計	已決囚出監時遷善ノ狀況及年齢等ノ關係 (明治何年) 應名					
		初犯	再犯	以上	以上	以上	以上
何	計	男	女	男	女	男	女
計	計	計	計	計	計	計	計

報年 表一十四第

放	詐	賭	竊	墮	毆	謀	印	官	貨	囚	兇	罪	新ニ刑ヲ受ケシ已決囚ノ罪名及刑名別 (明治何年) 應名	本年末日ノ現員	在監延人員	死亡者	逃走者
放	詐	賭	竊	墮	毆	謀	印	官	貨	囚	兇	罪	新ニ刑ヲ受ケシ已決囚ノ罪名及刑名別 (明治何年) 應名	本年末日ノ現員	在監延人員	死亡者	逃走者
計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計

合計		買上ノ部 普通官有地ニ属スル分		同 地方統制ニ属スル分	
郡區名	舊地種目	新地種目	段別(坪)	代	金率
合計					
同 地方統制ニ属スル分					
拂下ノ部 普通官有地ニ属スル分					
郡區名	舊地種目	新地種目	段別(坪)	代	金率
合計					
同 地方統制ニ属スル分					

一本表以下土地ニ關スル諸表總テ農商務省へ報告スル山林原野ノ如キハ記載ヲ要セス
 一官沒地拂下ノ部ニ記載シタルモノ及富省ノ訓令指令ニヨリテ増減シタル官有地ハ本
 表へ記載ヲ要セス

合計		無代下渡ノ部 普通官有地ニ属スル分		同 地方統制ニ属スル分	
郡區名	舊地種目	新地種目	段別(坪)	事	山
合計					
同 地方統制ニ属スル分					

表六十五第

普通官有地貸渡 (明治何年)		普通官有地貸渡 (明治何年)	
地 名	地 目	使用目	期 限
何郡(區)何町(村)			
何何番地			
貸貸ノ部	使用料ヲ國庫ニ納ムヘキ分		
段別			
地料			
月割料金			
貸渡月日			
貸渡ヲ受タ ル氏名			

年報

合計	地方税經濟ニ属スル土地ノ部	
	合計	
合計	民有地ノ部	
	合計	

一官沒地及土地増減ノ部ニ記載シタルモノハ本表ニ記載ヲ要セス即チ官有地或ハ民有地相互ノ地種目變換ヲ掲グルモノトス但民有地第一種中ノ地目變換ハ記載ヲ要セス
 一普通官有地ト地方税經濟ニ属スル土地ト變換セシトキハ別ニ一部ヲ設ケ記載スヘシ

表八十五

郡區名	地	日品	目數	正	代	金
普通官有地ノ土石動植物拂下 (明治何年)						
土石ノ部 拂下料ヲ國庫ニ納ムヘキ分						
廳名						

年報

合計	動物ノ部	
	合計	
合計	植物ノ部	
	合計	

一本表ハ郡區限リ地目別ニ記載スヘシ
 一拂下料ヲ地方税區町村費ニ組入レ又ハ社寺其他ニ下渡スヘキモノアレハ此例ニ倣シ
 別ニ一部ヲ設ケ記載スヘシ

表九十五

收入ノ部		普通官有地外國人へ貸渡料收入未收入 (明治何年度)	廳名
公	私		
地金	地料	前々日貸下	合計
坪貨	坪金	本年度貸下(一時收入)	

未収入ノ部 居留地岸ノ分 (山手居留地及ヒ競貸等各別項ニ取調フヘシ)	競 貸		類目 指令又ハ届出年月日	地 番 號 地 坪 百 坪 當 一 競 貸 元 金	地 返	渡 貸		類目 指令又ハ届出年月日	地 番 號 地 坪 一箇年貸渡料	紙 幣
	合 計	合 計				合 計	合 計			
			居留地山ノ分 (海岸居留地雜居地等亦之ニ做フ)							

報 年

計	合		代 貸 競				地 居 雜				地 留 居				館 使		
	地 登 分	地 銀 分	地 金	地 洋	地 紙	地 銀	地 洋	地 紙	地 銀	地 金	地 洋	地 登 分	地 銀 分	地 金	地 洋	地 紙	地 銀
	坪銀	坪貨	坪貨	坪銀	坪幣	坪貨	坪銀	坪幣	坪貨	坪銀	坪銀	坪貨	坪貨	坪銀	坪幣	坪貨	坪銀

指令又ハ届出年月日	地番號	地	坪	洋	銀	專	由
合計							

○官國幣社ヨリ稟申報告ヲ廢シ地方廳ニ受理報告ノ件

二十年三月二十五日
內務省訓令第十九號北海道廳府廳(沖繩縣ヲ除ク)

官國幣社ヨリ當省ヘノ稟申及報告之儀本年三月限り相廢ス同年四月以降ハ渾テ其地方廳ニ於テ受理シ左ノ件々ハ當省ヘ報告スヘシ

即報

國幣社例祭異動

風火災

盜難

官司死去

官司除服

半年報

保存金受拂精算

(自四月至九月)(四月二十日發送)
(自十月至三月)

社入金受拂精算

同

同

非常豫備金並蓄積金異動

同

同

○華族世襲財產法

十九年四月二十日布告
勅令第三十四號

朕華族世襲財產法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治十九年四月廿八日

內閣總理大臣伯爵伊藤博文

勅令第三十四號

華族世襲財產法

第一條 華族戶主滿二十年以上ノ者ハ此法ニ依リ世襲財產ヲ創設スルコトヲ得但爾二十年以上ノ者ト雖モ前代戶主ノ遺言アルトキハ世襲財產ヲ創設スルコトヲ得

第二條 世襲財產ハ總テ家督相續者ヲシテ之ヲ相續セシムルモノトス

第三條 世襲財產ハ左ニ掲クル所ノ二類ニ限ル但第十五國立銀行株券ハ第二類ニ準シ世襲財產ト爲スコトヲ得

第一條 田畑山林宅地鹽田牧場池沼等

第二條 政府發行ノ公債證書又ハ政府ノ保證若クハ特別ノ監督ニ屬スル銀行若クハ會社ノ株券

第四條 世襲財產ハ前條二類中ノ一種又ハ數種ニシテ其總額每年金五百圓ニ下ラサル純收益ヲ生スル財產タルヘシ但其財產中收益ナキ地所ヲ加フルモ妨ケナシ

第五條 世襲財產ノ所有者ハ特ニ世襲スヘキ建物庭園圖書資器等ヲ以テ世襲財產附屬

物ト爲スコトヲ得

第六條 負債償却ノ義務アル財産ハ世襲財産及ヒ附属物ト爲スコトヲ得

第七條 世襲財産ノ所有者ハ宮内大臣ノ認可ヲ得テ其財産ヲ増加スルコトヲ得

第八條 世襲財産ノ所有者ハ宮内大臣ノ認可ヲ得テ第二類ノ財産ヲ更換シテ第一類ノ

財産ト爲スコトヲ得但第一類ヲ第二類ト爲スコトヲ得ス

第九條 第一類ノ財産若シ災害又ハ其他ノ事故ニ依リ第四條ノ制限額ヨリ減シタルト

キハ五箇年以内ニ其欲額ヲ補充スヘシ

第十條 第二類ノ財産其元金ノ仕拂ヲ受ケタルトキハ一箇年以内ニ第一類又ハ第二類

ノ財産ヲ以テ其缺額ヲ補充スヘシ

第十一條 世襲財産ノ所有者ハ其財産ノ純収益ヲ抵當トシテ負債ヲ爲スコトヲ得但毎

年其純収益ノ三分一以上ノ償却ヲ爲スヘキ義務ヲ負擔スルコトヲ得ス

第十二條 世襲財産ノ純収益ハ如何ナル場合ト雖モ債主ヨリ毎年其三分一以上ヲ差押

フルコトヲ得ス

第十三條 世襲財産及ヒ附属物ハ之ヲ賣却譲與シ又ハ質入書入ト爲スコトヲ得ス

第十四條 世襲財産及ヒ附属物ハ負債ノ抵償トシテ差押フルコトヲ得ス

第十五條 世襲財産ハ左ノ場合ニ於テハ其効力ヲ失フモノトス

一 戸主死亡ノ後家督相續スヘキ男子ナキトキ

一 爵ヲ奪ハレ又ハ族ヲ除カレ家督相續ナキトキ

一 第九條第十條ニ掲ケタル缺額ヲ其期限内ニ補充セサルトキ

第十六條 世襲財産及ヒ附属物ハ其所有者ニ於テ之ヲ廢止スルコトヲ得ス

第十七條 世襲財産ハ宮内大臣之ヲ管理シ華族局ヲシテ其事務ヲ取扱ハシム

第十八條 華族局ハ世襲財産臺帳ヲ備ヘ置キ世襲財産及ヒ之ニ關スル事項ヲ記入スヘ

シ

第十九條 世襲財産ヲ創設増加更換又ハ補充セントスル者ハ其願書ニ財産目録ヲ添ヘ

宮内大臣ニ差出シ其認可ヲ受クヘシ世襲財産附属物ヲ設ケントスル者亦同シ

第二十條 宮内大臣ハ前條ノ願書目録ヲ審査シ第一類ノ財産及ヒ第二類ノ公債證書ハ

所轄ノ地方廳ニ命シ株券ハ銀行若クハ會社ニ命シ世襲財産ト爲スヘキ旨ヲ官報及ヒ

其地方一定ノ新聞紙ニ掲ケ一週日間之ヲ公告セシムヘシ

世襲財産附属物ハ華族局ニ於テ之ヲ公告スヘシ

第二十一條 前條公告ヲ了リタル後三十日ヲ經テ該財産ニ關シ故障ヲ申出ル者ナキト

キハ宮内大臣ハ世襲財産臺帳ニ記入セシメ第一類ノ財産ハ所轄ノ地方廳ニ命シ地券

臺帳ニ記入セシメ地方廳ハ戸長ニ命シ公證書ニ記入セシムヘシ第二類ノ公債證書ハ

所轄ノ地方廳ニ株券ハ銀行若クハ會社ニ命シ帳簿ニ記入セシムヘシ

華族局ニ於テハ該地券又ハ公債證書若クハ株券ノ券面ニ世襲財産ト爲リタル旨ヲ記

入スヘシ

第二十二條 世襲財産其効力ヲ失ヒタルトキハ宮内大臣ヨリ地方廳又ハ銀行若クハ會社ニ命シ之ヲ公告セシムヘシ

世襲財産附屬物ハ華族局ニ於テ之ヲ公告スヘシ

第二十三條 第二十條及ヒ第二十二條ニ關スル公告費用ハ其財産所有者ヨリ之ヲ華族局ニ納ムヘシ

第二十四條 世襲財産ニ關スル事件ヲ協議スルカ爲メ戸主及ヒ滿二十年以上ノ和親者若クハ後見人ト親屬三名以上トヲ以テ親屬會議ヲ組織シ豫メ宮内大臣ニ届出ヘシ但親屬ナキトキハ宮内大臣ノ認可ヲ得テ一族又ハ他ノ華族ヲ以テ親屬會議員ニ充ルコトヲ得

第二十五條 世襲財産ニ關スル願書願書ハ親屬會議各員ノ連署ヲ要ス

第二十六條 此法施行ノ手續ハ宮内大臣之ヲ定ム

第二十七條 此法ハ明治十九年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二百九十五章

氣象臺測候所條例

二十年八月八日勅令第四十一號

朕氣象臺測候所條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御 璽

明治二十年八月三日

内閣總理大臣伯爵伊藤博文

内務大臣 伯爵山縣有朋

勅令第四十一號

氣象臺測候所條例

第一條 東京ニ中央氣象臺ヲ置キ地方便宜ノ場所ニ地方測候所ヲ置ク其位置ハ内務大臣之ヲ指定ス

第二條 前條ノ外測候所ヲ設置セントスル者アルトキハ内務大臣ノ許可ヲ受ク可シ

第三條 中央氣象臺ハ内務大臣之ヲ直轄シ地方測候所ハ地方長官之ヲ管理シ内務大臣之ヲ監督ス其他ノ測候所ハ地方長官之ヲ監督ス

第四條 地方測候所ノ費用ハ該測候所所在地ノ地方稅ヲ以テ支辨ス可シ

第五條 中央氣象臺及各地測候所ハ事業上互ニ氣脈ヲ通シ通信ヲ爲ス可シ

第六條 本條例施行ニ關スル細則ハ内務大臣之ヲ定ム

○氣象臺測候所條例施行細則

二十年八月十日 内務省令第一號

氣象臺測候所條例施行細則左ノ通相定ム

氣象臺測候所條例施行細則

第一條 中央氣象臺ハ各地ノ氣象測候報告ヲ聚閱公布シ及其器械ヲ檢閲シ港津及至

二天氣豫報ヲナシ且氣中ノ現象ヲ調査スル所トナス

第二條 測候所ハ分テ一等二等三等トナス
一等測候所ハ所在地ノ氣壓氣溫日溫地溫濕度風雲雨雪蒸發等ヲ觀測スル所トス其間

二十一年十月
十一月十日
十二月十日
一月十日
二月十日
三月十日
四月十日
五月十日
六月十日
七月十日
八月十日
九月十日
十月十日
十一月十日
十二月十日

測ハ各種ノ自記器械ヲ備ルニアラサレハ必毎時ノ觀測ヲ行フモノトス
二等測候所ハ所在地ノ普通氣象即チ氣壓溫度濕度風雲雨雪等ヲ一日七回ノ觀測ヲナ
ス所トス

三等測候所ハ所在地ノ普通氣象中氣若クハ二三ノ主ナルモノヲ一日一回以上ノ觀測
ヲナス所トス

第三條 溫度ハ攝氏ノ度ヲ用ヒ尺度ハ「メートル」ヲ用フ可シ但所用器械ノ度目異ナル
モノト雖モ報告書ニ記載スル所ハ必ス本條ノ度目ニ更正シタルモノタル可シ

第四條 時刻ハ標準時ヲ用フ可シ但明治二十年十二月三十一日迄ハ京都時ヲ用フ可シ
第五條 觀測ハ分テ定時臨時ノ二類トナス其時刻ハ左ノ如シ

定時觀測

一等測候所 自記器械ヲ備ヘサルモノハ每一時合二十四回自記器械ヲ備フルモノ
ハ午前二時六時十時午後二時六時九時十時合七回

二等測候所 午前二時六時十時午後二時六時九時十時合七回

三等測候所 器械ノ種類及多少ニ依リ一定セスト雖モ毎日午前十時一回若クハ午
前十時午後十時合二回若クハ午前六時或ハ十時午後二時十時合三回

臨時觀測

中央氣象臺ヨリ暴風警報ヲ受タル時及暴風雨急襲地震續起等ノ際ニ於テハ每十
分時每半時每一時各一回

第六條 報告ハ分テ定期臨時ノ二類トナス其種類及期限ハ左ノ如シ
中央氣象臺

定期

毎日三回

天氣豫報及天氣圖 午前八時午後四時及十一時内外

毎月一回

氣候概況 翌月三日以内

氣象月報 翌月三十日以内

地震月報 翌月卅日以内

磁氣月報 同上

電氣月報 同上

毎年一回

氣象概況 翌年一月三十一日以内

氣象略報 翌年三月十五日以内

氣象年報 翌年三月三十一日以内

地震年報 同上

磁氣年報 同上

電氣年報 同上

一週年事務報告 翌年一月三十一日以内

臨時報

暴風警報 暴風襲來ノ虞アルコトヲ認メタル時

暴風雨概況 暴風ノ終リタル時ヨリ二十四時間以内

暴風雨報告 暴風ノ終リタル日ヨリ三十日以内

雜報 不定

測候所

定期

每五日一回

氣象半旬報 二十四時間以內

每月一回

氣象月報 翌月三日以內

每年一回

氣象年報 翌年一月三十一日以內

萬國同時觀測月報 同上

一週年事務報告 同上

但三等測候所ハ半旬報萬國同時觀測月報及一週年事務報告ヲ要セス

臨時報

暴風報告 暴風ノ終リタル時ヨリ二十四時間以內

地震報告 地震ノ終リタル時ヨリ二十四時間以內

動物報告 翌月五日以內

植物報告 同上

第七條 特ニ電信報告ヲ發スル測候所ハ前條ノ外中央氣象臺ニ對シ左ノ電報ヲナスモノトス

定期報

毎日三回

午前六時午後二時及九時觀測 觀測ヲ終リタルトキヨリ十分以內

臨時報

暴風ノ徵候 暴風襲來ノ處アルコトヲ認メタルトキ

第八條 中央氣象臺ノ報告ハ或ハ官報ヲ用ヒ或ハ直ニ測候所ニ遞送ス測候所ノ報告ハ

總テ中央氣象臺ニ遞送スル者トス

第九條 報告書式ハ中央氣象臺ニ於テ內務大臣ノ認可ヲ得テ定ル所ニ依ル

第十條 中央氣象臺ハ五年以內ニ一回技師ヲシテ各測候所ヲ巡閱セシム

第十一條 內務大臣ハ地方長官ニ令シテ各測候所長ヲ中央氣象臺ニ參集シ事務及ヒ技

術上ノ會議ヲ開カシムルコトアル可シ但各測候所長ノ旅費及滞在日當ハ其測候所ノ

費用ヲ以テ支辨スルモノトス

第十二條 條例第二條ニ依リ測候所ヲ設置セントスルトキハ左ノ諸件ヲ詳記シ地方長

官ヲ經由シテ內務大臣ノ許可ヲ請フ可シ

第一 測候所ノ種類

第二 設立ノ位置及地勢地形及測候所ノ略圖ヲ添フ可シ

第三 創立費及維持費ノ額及其支出方法

第四 職員ノ數及俸給

第十三條 內務大臣新ニ測候所ノ設立ヲ許可セハ官報ニ載セテ之ヲ全國ニ告示ス可シ

第十四條 町村又ハ人民ニ於テ新ニ暴風標及ヒ天氣豫報揭示場ヲ設立セント欲スルト

キハ地方長官ノ許可ヲ請フ可シ

第十五條 地方長官新ニ暴風標及ヒ天氣豫報揭示場ヲ設立シ及ヒ其設立ヲ許可セハ少クモ實施ヨリ三十日前地理局ニ報知ス可シ但暴風標ノ位置ハ略圖ヲ添フ可シ

第十六條 地理局ハ暴風標及天氣豫報揭示場ノ開設ヲ全國ニ公告ス可シ

第十七條 北海道沖繩縣ニ在リテハ本條例第四條ニ基キ該道縣ノ地方費ヲ以テ測候所ノ費用ヲ支辨ス可シ

○地方測候所費地方稅費目支辨方

二十年十月二十七日內務省訓令
第四十六號府縣(沖繩縣ヲ除ク)

本年勅令第四十一號氣象臺測候所條例第四條ノ規定ニ係ル地方測候所費ハ地方稅費目中勸業費ヨリ支辨スヘシ

第二百九十六章 各省官制

朕各省ノ官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治十九年二月十六日

內閣總理大臣伯爵伊藤博文

勅令第二號

各省官制

通則

第一條 此命令中各省トアルハ外務省內務省大藏省陸軍省海軍省司法省文部省農商務省逓信省ヲ合稱ス

此通則ニ依リ難キモノハ其省ノ部ニ就テ之ヲ定ム

第二條 各省大臣ハ其主任ノ事務及今後法律勅令ニ依リ主任ニ屬スル事務ニ付其責任スヘシ

主任ノ事務兩省以上ニ關涉スルトキハ關涉ノ各省大臣ノ間ニ協議ヲ經テ其主任ヲ定メ上奏スヘシ若シ各省大臣ノ間協議決定セサルトキハ之ヲ閣議ニ提出スヘシ

第三條 各省大臣事故アルトキハ臨時命ヲ承テ他ノ大臣其事務ヲ代理スルコトアルヘシ

第四條 凡ソ法律勅令ノ各省大臣主任ノ事務ニ屬スルモノハ各省大臣內閣總理大臣ト均シク之ニ副署ス若シ兩省以上ニ關涉スルモノアルトキハ內閣總理大臣及關涉ノ各省大臣均シク之ニ連署スヘシ

第五條 各省大臣ノ其主任ノ事務ニ付法律勅令ノ制定廢止及改正ヲ要スルコトアルトキハ案ヲ具ヘ閣議ニ提出スルコトヲ得

第六條 各省大臣ハ其主任ノ事務ニ付其職權若クハ特別ノ委任ニ依リ法律勅令ノ範圍內ニ於テ法律勅令ヲ施行シ又ハ安寧秩序ヲ保持スル爲ニ省令ヲ發スルコトヲ得

第七條 各省大臣ノ命令ニハ罰金二十五圓以下又ハ禁錮二十五日以内ノ罰則ヲ附スルコトヲ得

第八條 各省大臣ハ法律勅令ノ範圍內ニ於テ其省中各局課及其所轄官廳ノ處務細則ヲ定ムルコトヲ得

第九條 法律勅令ニ副署シ省務ヲ敷奏シ内閣ノ議ニ列シ及省令ヲ發スルコトヲ除クノ外各省大臣ハ其職務ヲ次官ニ代理セシメ又ハ其職務ノ一部ヲ次官ニ委任スルコトヲ得

第十條 各省大臣ハ其主任ノ事務ニ付警視總監北海道廳長官府知事縣令ニ指令又ハ副令ヲ下スコトヲ得

第十一條 各省大臣ハ其主任ノ事務ニ付警視總監北海道廳長官府知事縣令ヲ監督スヘシ若シ警視總監北海道廳長官府知事縣令ノ處分又ハ指令ノ成規ニ違ヒ公益ヲ害シ又ハ權限ヲ犯スモノアリト認ムルハ其處分指令ヲ停止シ又ハ取消スコトヲ得

第十二條 各省大臣ハ所部ノ官吏ヲ統督シ委任官以上ノ進退ハ内閣總理大臣ヲ經テ之ヲ上奏シ判任官以下ハ之ヲ專行ス

第十三條 各省大臣ハ内閣總理大臣ヲ經テ所部官吏ノ叙位叙勳及恩給ヲ上奏スヘシ

第十四條 各省大臣ハ閣議ノ後裁可ヲ經ルニ非サレハ局課ヲ廢置分合シ又ハ定限ノ外新ニ勅委任官ヲ増加スルコトヲ得ス

第十五條 各省大臣ハ豫算決定後臨時ニ増額又ハ別途支出ヲ請求スルコトヲ得ス但臨時ノ事變ヲ他ノ成規ニ依リ止ムヲ得サルモノハ此限ニアラス

第十六條 各省大臣ハ俸給豫算額内ニ於テ其省限り定員ヲ設ケ判任官ヲ任用スルコトヲ得

第十七條 各省大臣ハ臨時ノ須要ニ依リ判任官定員ノ外ニ俸給豫算定額内ニ於テ雇員

ヲ使用スルコトヲ得

第十八條 各省大臣ハ其主任ノ事務ニ付時々ノ狀況ヲ内閣總理大臣ニ報告スヘシ

第十九條 各省大臣ハ毎會計年度末ニ於テ前年ノ功程ヲ具ヘ内閣總理大臣ヲ經テ報告書ヲ上奏スヘシ

第二十條 各省大臣ハ毎會計年度末ニ於テ判任官以下使用ノ狀況ヲ具ヘ臨時事務ノ爲ニ使用シタル雇員ノ日數人員及金額ヲ細分統計シ内閣總理大臣ニ報告スヘシ

第二十一條 各省大臣ハ一周年末ニ其省ノ豫算定額内ニ於テ委任官以下特別ノ勳勞アル者ヲ賞與シ之ヲ官報ニ公録スルコトヲ得

第二十二條 各省大臣ハ所部ノ官吏ヲシテ他省ニ涉リ又ハ他省ヨリ兼官セシムルコトヲ得ス若シ止ムヲ得サル要用アルトキハ之ヲ閣議ニ提出シテ裁可ヲ請フヘシ

第二十三條 各省大臣ハ臨時密査ノ爲メ省中定員ノ内ヲ以テ便宜委員ヲ設クルコトヲ得

第二十四條 各省大臣ハ法律勅令ノ定ムル所ニ從ヒ部下ノ官吏ヲ懲戒ス

第二十五條 各省職員ヲ置ク左ノ如シ

次官

秘書官

書記官

局長

参事官

局长長

試補

屬

- 第二十六條 前條ノ外各省特別ノ職員ヲ置クモノハ各省ノ部ニ就テ之ヲ定ム
- 第二十七條 各省次官一人ヲ置ク勅任トス
- 第二十八條 次官ハ主任大臣ノ命ヲ承ケ第九條ノ範圍内ニ於テ大臣ノ職務ヲ代理シ又ハ大臣ノ指命シタル範圍内ニ於テ委任ヲ受ク
- 次官事故アルトキハ大臣其省中ノ官吏ヲシテ臨時其職務ヲ代理セシムルコトヲ得
- 第二十九條 次官ハ大臣ノ代理トシテ公文ニ署名スルコトヲ得
- 第三十條 次官ハ總務局長トナリ命ヲ大臣ニ承ケ各局課ノ事務ヲ監督シ省務ノ全部ヲ整理スルノ責ニ任ス
- 第三十一條 各省ニ大臣官房ヲ置ク大臣官房ハ機密文書ヲ掌リ大臣次官ノ官印及省印ヲ管守ス
- 第三十二條 大臣官房ハ大臣親展ノ文書機密事務所官吏ノ進退身分ニ關スル事務及大臣ニ屬スル一切ノ事務ヲ掌ル
- 所部官吏ノ進退身分ニ關スル事務ハ各省ノ便宜ニ從ヒ總務局中ノ一課ニ於テ處理スルコトヲ得

- 第三十三條 秘書官ハ委任トス大臣ニ專屬シテ官房ノ事務ヲ掌ル
- 秘書官ノ定員ハ各省ノ部ニ就テ之ヲ定ム
- 第三十四條 秘書官ハ臨時命ヲ承ケ書記官及各局課ノ事務ヲ助ケタルコトアルヘシ
- 各省ノ便宜ニ依リ特ニ秘書官ノ所掌ニ屬セシムルモノハ各省ノ部ニ就テ之ヲ定ム
- 第三十五條 各省中省務ノ全部ヲ統轄スル爲ニ總務局ヲ置キ省務ヲ分掌スル爲ニ各局ヲ置ク
- 第三十六條 各省總務局ニ文書課往復課報告課及記録課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム
- 第三十七條 文書課ハ省中各局成案ノ回議ヲ審査シ諸文案ヲ起草スル事ヲ掌ル
- 第三十八條 往復課ハ凡テ各省ニ到達スル公文書類及成案文書ヲ接受シ并發送ノ事ヲ掌ル
- 第三十九條 報告課ハ各局課ニ就キ統計報告ノ材料ヲ採輯シ統計報告ヲ調整シテ大臣ノ査閱ニ供シ官報掲載ノ事項ヲ官報局ニ送致スル事ヲ掌ル
- 第四十條 記録課ハ其省及省中各局課一切ノ公文書類ヲ編纂保存ス
- 各省中記録局ノ設ケアルモノハ別ニ記録課ヲ置カス
- 第四十一條 各省ノ便宜ニ依リ特ニ總務局ノ所掌ニ屬セシムルモノハ各省ノ部ニ就テ之ヲ定ム
- 第四十二條 書記官ハ委任トス大臣又ハ總務局長ノ命ヲ承ケ各局ノ成案ヲ審査シ文書ヲ掌リ又ハ總務局中諸課ノ長ヲ兼テ課務ヲ掌理ス

參事官

局長

試補

屬

第二十六條 前條ノ外各省特別ノ職員ヲ置クモノハ各省ノ部ニ就テ之ヲ定ム

第二十七條 各省次官一人ヲ置ク勅任トス

第二十八條 次官ハ主任大臣ノ命ヲ承ケ第九條ノ範圍内ニ於テ大臣ノ職務ヲ代理シ又ハ大臣ノ指命シタル範圍内ニ於テ委任ヲ受ク

次官事故アルトキハ大臣其省中ノ官吏ヲシテ臨時其職務ヲ代理セシムルコトヲ得

第二十九條 次官ハ大臣ノ代理トシテ公文ニ署名スルコトヲ得

第三十條 次官ハ總務局長トナリ命ヲ大臣ニ承ケ各局課ノ事務ヲ監督シ省務ノ全部ヲ整理スルノ責ニ任ス

第三十一條 各省ニ大臣官房ヲ置ク大臣官房ハ機密文書ヲ掌リ大臣次官ノ官印及省印ヲ管守ス

第三十二條 大臣官房ハ大臣親展ノ文書機密事務所官吏ノ進退身分ニ關スル事務及大臣ニ屬スル一切ノ事務ヲ掌ル

所部官吏ノ進退身分ニ關スル事務ハ各省ノ便宜ニ從ヒ總務局中ノ一課ニ於テ處理スルコトヲ得

第三十三條 秘書官ハ奏任トス大臣ニ專屬シテ官房ノ事務ヲ掌ル

秘書官ノ定員ハ各省ノ部ニ就テ之ヲ定ム

第三十四條 秘書官ハ臨時命ヲ承ケ書記官及各局課ノ事務ヲ助ケルコトアルヘシ

各省ノ便宜ニ依リ特ニ秘書官ノ所掌ニ屬セシムルモノハ各省ノ部ニ就テ之ヲ定ム

第三十五條 各省中省務ノ全部ヲ統轄スル爲ニ總務局ヲ置キ省務ヲ分掌スル爲ニ各局ヲ置ク

第三十六條 各省總務局ニ文書課往復課報告課及記録課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム

第三十七條 文書課ハ省中各局成案ノ回讀ヲ審査シ諸文案ヲ起草スル事ヲ掌ル

第三十八條 往復課ハ凡テ各省ニ到達スル公文書類及成案文書ヲ接受シ并發送ノ事ヲ掌ル

第三十九條 報告課ハ各局課ニ就キ統計報告ノ材料ヲ採輯シ統計報告ヲ調整シテ大臣

ノ査閱ニ供シ官報掲載ノ事項ヲ官報局ニ送致スル事ヲ掌ル

第四十條 記録課ハ其省及省中各局課一切ノ公文書類ヲ編纂保存ス

各省中記録局ノ設ケアルモノハ別ニ記録課ヲ置カス

第四十一條 各省ノ便宜ニ依リ特ニ總務局ノ所掌ニ屬セシムルモノハ各省ノ部ニ就テ之ヲ定ム

第四十二條 書記官ハ奏任トス大臣又ハ總務局長ノ命ヲ承ケ各局ノ成案ヲ審査シ文書ヲ掌リ又ハ總務局中諸課ノ長ヲ兼子課務ヲ掌理ス

書記官ノ定員ハ各省ノ部ニ就テ之ヲ定ム

第四十三條 總務局ノ外各局ニ局長同次長各一人ヲ置ク局長局次長ハ委任トス各局ニ局長アレハ局次長ヲ置カス局次長アレハ局長ヲ置カサルコトアルヘシ

第四十四條 局長ハ大臣又ハ總務局長ノ命ヲ承ケテ其主務ヲ掌理シ及各課ノ事務ヲ指揮ス

第四十五條 局長又ハ局次長ハ其主任ノ事務ニ付其職權ニ属シ又ハ特別ノ委任ヲ受クルノ事項ハ之ヲ專行スルコトヲ得

第四十六條 局次長ハ局長ノ事務ヲ佐ク若シ局長ナキトキ又ハ局長事故アルトキハ大臣ノ命ニ依リ局長ノ事務ヲ掌理ス

第四十七條 參事官ハ委任トス大臣又ハ次官ノ諮詢ニ應シ意見ヲ具ヘ及審議立案ヲ掌ル

參事官ノ定員ハ各省ノ部ニ就テ之ヲ定ム

第四十八條 參事官ハ其省ノ便宜ニ從ヒ局課ノ事務ヲ兼任シ若クハ臨時命ヲ承ケテ其事務ヲ助クルコトアルヘシ

各省ノ便宜ニ依リ特ニ參事官ノ所掌ニ属セシムルモノハ各省ノ部ニ就テ之ヲ定ム

第四十九條 試補ハ委任ニ准シ定期間大臣ノ指命スル所ニ就キ事務ヲ練習シ任官ヲ待ツモノトス

各省試補ノ規則ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十條 局中各課ニ課長一人ヲ置キ判任官ヲ以テ之ニ充ツ課長ハ命ヲ局長ニ承ク各省中特ニ委任官ヲ以テ課長ヲ兼子シムルモノハ各省ノ部ニ就テ之ヲ定ム

第五十一條 属ハ判任トス各上官ノ指揮ヲ承ケ書記簿記及計算ノ事ニ從フ

第五十二條 各省中特ニ補助員ヲ要シ又ハ顧問員ヲ要スルトキハ每次狀ヲ具ヘテ閣議ニ提出シ裁可ヲ請フヘシ

第五十三條 各省處務規程中公文ノ取扱順序ハ左ノ條項ニ依ラシム

第五十四條 各省ニ到達スル文書ハ凡テ總務局往復課ニ接受シ課長之ヲ取纏メ開封シ件名番號等ヲ簿冊ニ記入シテ總務局長ノ査閱ニ供スヘシ

第五十五條 總務局長ハ其文書ヲ査閱シ事例規ナキカ又ハ重要ナリト認ムルモノハ之ヲ大臣ノ査閱ニ供シ其他尋常ノ件ハ主務ノ處ヲ指示シ之ニ檢印シテ往復課長ニ下付シ直ニ之ヲ配付セシム往復課長ヨリ各局ニ配付スル文書ハ之ヲ各局往復主任属ニ配付ス

第五十六條 大臣親展ノ文書ハ封皮ノ上ニ記號シ記簿ノ後直ニ大臣又ハ秘書官ニ送付ナスヘシ

第五十七條 秘書官ハ大臣親展ノ文書及往復課ヲ經スシテ各局課ヨリ送付スル文書ヲ受領シタルトキハ其番號ヲ簿冊ニ記シ直ニ之ヲ大臣ニ提出ス決裁濟ノ文書ハ其主務ノ處ニ送付シ受領者ノ檢印ヲ要スヘシ

第五十八條 凡ソ送付ノ文書ハ送付記簿簿ニ受領者ノ檢印ヲ要スヘシ

第五十九條 各局長ハ大臣又ハ次官ヨリ事務ノ處分ヲ受ケ又ハ往復課長ヨリ文書ノ配付ヲ受ケタルトキハ各其主務ニ從ヒ各課長ニ文書ヲ配付シ其緩急ヲ示シ其處分方ヲ授ケテ速ニ之ニ從事セシムヘシ

第六十條 各局課長ハ受領ノ文書ヲ處理スルニ當リ定期ヲ經過スルヲ得ス若シ事件ノ錯綜スルカ或ハ敷局課ニ聯帶シテ時日ヲ要スルノ見込アルトキハ凡ソ其時日ヲ定メ豫メ次官ノ允許ヲ受クルヲ要ス但文書ヲ處理スルノ定期ハ各省ノ定ムル所ニ依ル

第六十一條 事ノ敷局課ニ聯帶スル文書ハ主務ノ局課ニテ處分案ヲ起草シ關係局課ノ檢印ヲ要スヘシ若シ彼此見テ異ニスルトキハ面議商量シ尙ホ決セザルトキハ直ニ大臣又ハ次官ニ面陳シテ決裁ヲ請ヒ附箋ヲ以テ應答スルヲ許サス

第六十二條 各局課調査濟ノ成案ハ往復主任ノ屬ヨリ之ヲ往復課ニ回付シ往復課ハ直ニ之ヲ總務局長ニ提出シ總務局長ハ査閱ノ上大臣ノ決裁ヲ請フヘシ總務局長大臣ノ代理ヲ爲シ又ハ委任ヲ受クル事件ハ査閱ヲ經テ直ニ施行スヘシ

第六十三條 總務局長ニ於テ各局課ノ成案ニ異議アルトキハ各局長ニ命シテ之ヲ修正セシメ又ハ大臣ノ旨ヲ承テ各局長ニ指揮ヲ爲スコトアルヘシ

第六十四條 大臣及次官ノ決裁ヲ經タル文書ハ往復課ニ於テ淨書シ秘書官ニ就キ大臣ノ印ヲ鈐シ件名番號等ヲ簿冊ニ記入シテ直ニ發送ス其原文書ニハ交付發送ノ年月日ヲ記シ往復課長之ニ檢印シテ主務ノ處ニ返付スヘシ

各局課長ノ名ヲ以テ施行スルモノハ其局課ニ於テ淨寫押印シ之ヲ往復課ニ送ス往復課ハ其件名番號等ヲ簿冊ニ記入シテ之ヲ發送ス

第六十五條 總務局ニ於テ起草シタル文案ハ總務局長直ニ大臣ニ提出シ決裁ヲ請フヘシ

第六十六條 事ノ急務ヲ要シ又ハ機密ニ係ルモノハ通常ノ手續ニ依ラス直ニ大臣ノ決裁ヲ請フコトアルヘシ

第六十七條 至急又ハ機密ノ文書ハ通常ノ手續ニ依ラス便宜主任者ニ於テ自ラ携帶シテ諸局ノ議ヲ取り并官房ニ提出スルコトヲ得其決裁濟施行ニ至ル迄ノ順序モ亦便宜ニ從ヒ別ニ至急機密文書ノ件名簿ヲ調整シテ之ヲ登錄スルコトヲ得

第六十八條 文書調査ノ爲メ他ノ官署ニ照會ヲ要スルトキハ往復課ヲ經ス各局課長ノ名ヲ以テ往復スルコトヲ得

第六十九條 往復課長ハ各局課ニ配付シタル文書ノ日限ヲ計算シ若シ故ナクシテ日限内ニ往復課ニ回付セサルモノアルトキハ其件名及局名ヲ總務局長ニ報告スヘシ

第七十條 大臣ノ命ニ依リ一時處分ヲ爲スヲ要セスシテ留置クヘキ文書ハ總テ總務局ニ於テ之ヲ保管スヘシ

第七十一條 各局課ノ文書處分濟ノモノハ之ヲ記録局又ハ記録課ニ送付ス其機密ニ屬スル文書ハ別ニ大臣ノ命スル所ニ依リ秘書官之ヲ保管スルコトアルヘシ

第七十二條 各省ノ會計事務ニシテ別段ノ法律命令ニ依テ定メタルモノヲ除クノ外金

錢出納ニ關シテハ左ノ條項ニ依ラシム

第七十三條 各省會計局ハ其省及所轄廳費ノ豫算決算省中ノ會計事務及所轄ノ地所建
物ニ關スル事務ヲ掌ラシム局中出納課検査課及用度課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム

第七十四條 出納課ハ其省及所轄廳費ノ豫算決算金錢ノ出納諸帳簿ノ整頓并計算表ノ
調整ヲ掌ル

第七十五條 検査課ハ金錢出納ノ當否及各般ノ證書ヲ検査スルコトヲ掌ル

用度課購入ノ物品ハ臨時局長ノ命ヲ承ケテ検査スルコトアルヘシ

第七十六條 用度課ハ所轄ノ地所建物其他一切ノ需用品ニ關スル事務ヲ掌ル

第七十七條 俸給並旅費其他一切ノ經費并收入ニ關スル事ハ出納課ニ於テ之ヲ管理シ
其都度仕出文書ニ依リ出納傳票ニ事由ヲ摘用シテ局長ニ差出シ局長ニ於テ相當ナリ
ト思惟スルトキハ検査課ヲシテ検査セシメ然ル後大臣又ハ次官ノ決裁ヲ請ヒ收入及
支出ノ手續ヲ爲サシムヘシ

第七十八條 出納課ニ於テハ出納傳票ニ捺スル局長並各課經由ノ捺印ヲ認メテ其出納
ヲ帳簿ニ登記シ毎日殘額表ヲ製シテ局長ノ査閱ニ供スヘシ

第七十九條 凡ソ記簿上ニ誤寫脱字アルモ一切改補塗抹スルコトヲ許サス其事由ヲ詳
記シテ主務者之ニ捺印スヘシ

第八十條 検査課長ハ局長ノ命ヲ受ケ臨時局中各般ノ帳簿證書ヲ検査スルコトアルヘ
シ

第八十一條 凡ソ金錢出納ニ關スル仕出文書ハ定期間ニ於テ之ヲ處理スヘシ其錯綜ス
ル事件ト雖モ豫メ局長ノ許可ヲ得スシテ定期ヲ經過スルコトヲ得ス但仕出文書ヲ處
理スルノ定期ハ各省定ムル所ニ依ル

第八十二條 營繕ハ用度課ヨリ其申立ヲ爲シ局長ニ於テ相當ナリト思惟スルトキハ檢
査課ノ検査ヲ經大臣又ハ次官ノ許可ヲ得タル後用度課ニ於テ之ヲ掌理セシム但從前
閣議ヲ經テ施行スルモノハ仍ホ舊ニ依ル

第八十三條 廳中日常須要ノ物品ハ總テ用度課ニ於テ管守シ需用アル毎ニ各局課長ノ
證券ヲ以テ之ヲ請求セシムヘシ

第八十四條 用度課ハ省中取締ニ關スル事務ヲ掌リ及各種ノ物品ニ關スル出入帳簿ヲ
製シ其出入ヲ明確ナラシムヘシ

第八十五條 前條掲クル外特ニ會計局ノ所掌ニ屬セシムルモノハ各省ノ部ニ就テ之ヲ
定ム

第二百九十七章

宮内省官制

明治十九年二月
宮内省第一號

宮内省官制

宮内大臣

帝室ノ事務ヲ總判シ宮中職員皇族職員ヲ統督シ華族ヲ管理スルコトヲ掌ル
宮内次官 一人 勅任

大臣ヲ輔ケ省務ヲ整理ス大臣事故アルハ之ヲ代理スルコトヲ得

書記官

六人 奏任

秘書官

一人 奏任

属

判任

内事課

課長

一人 書記官ヲ以テ之ニ充ツ

省内庶務ヲ掌ル

課次長

一人 書記官ヲ以テ之ニ充ツ

外事課

課長

一人 書記官ヲ以テ之ニ充ツ

帝室外交ノ事ヲ掌ル

課次長

一人 書記官ヲ以テ之ニ充ツ

侍從職

侍從長

一人 勅任

常侍奉仕シ及侍從内豎ヲ監督スルコトヲ掌ル

侍從

勅任又ハ奏任(明治二十年四月文部省達第九號ヲ以テ侍從ノ下勅任又ハノ四字ヲ追加ス)

常侍奉仕ス

奏任

侍從試補

内豎

奏任

属

判任

式部職

長官

一人 勅任

帝室ノ祭典儀式雅樂ノ事ヲ總掌ス

次官

一人 勅任

式部官

奏任

禮式ヲ掌ル

属

判任

掌典長

一人 勅任

掌典

奏任

祭典ヲ掌ル

掌典補

判任

雅樂長

一人 式部官掌典ノ内ヨリ之ヲ兼マ

式部長官ニ属シ雅樂師長以下ヲ監督ス

雅樂師長

一人 奏任

雅樂師副長

一人 奏任

雅樂師

判任

雅樂手	判任
雅樂生	等外
皇太后宮職	
大夫	一人 勅任
亮	一人 勅任
属	判任
皇后宮職	
大夫	一人 勅任
亮	一人 奏任
属	判任
大膳職	
大夫	一人 勅任
亮	一人 奏任
属	判任
内藏寮	
頭	一人 勅任
帝室財務ノ事ヲ掌ル	

權頭	奏任	頭アレハ之ヲ置カス
助	一人 奏任	
權助	奏任	助アレハ之ヲ置カス
属	判任	
主殿寮		
頭	一人 勅任	
宮殿洒掃鋪設器具及宮門管輪防火警戒ノ事ヲ掌ル		
權頭	奏任	頭アレハ之ヲ置カス
助	一人 奏任	
權助	奏任	
属	判任	
舍人		省中判任官ノ内ヨリ之ヲ兼ヌ
式場ノ使役ニ服ス		
内舍人		判任
宮中ノ使役ニ服ス		
仕人		等外
門監		判任

宮門ノ開閉ヲ監ス
 門監補 判任
 門部 等外
 門監ノ指揮ヲ受ケ宮門ノ出入ヲ檢察ス
 消防監 判任
 宮中防火ノ事ヲ掌ル
 消防監補 判任
 消防嚮導 等外
 消防手 等外
 圖書寮
 頭 一人 勅任
 帝室ノ記録圖書及寶器美術保存ノ事ヲ掌ル
 權頭 奏任 頭アレハ之ヲ置カス
 助 一人 奏任
 權助 勅任 助アレハ之ヲ置カス
 屬 判任
 内匠寮
 頭 一人 勅任

帝室ノ土木工匠及庭園ノ事ヲ掌ル
 權頭 奏任 頭アレハ之ヲ置カス
 助 一人 奏任
 權助 奏任 助アレハ之ヲ置カス
 屬 判任
 匠師 奏任
 匠手 判任
 匠手補 等外
 主馬寮
 頭 一人 勅任
 馬匹ノ調習飼養車駕乘具ノ事ヲ掌ル
 權頭 奏任 頭アレハ之ヲ置カス
 助 一人 奏任
 權助 奏任 助アレハ之ヲ置カス
 風 判任
 馭者 判任
 馬醫 判任
 諸陵寮

頂	一人	奏任	
諸陵ノ事ヲ掌ル			
權頭	一人	奏任	頭アレハ之ヲ置カス
助			
權助	一人	奏任	助アレハ之ヲ置カス
屬			
守長			判任
守部			等外
御料局			等外
長官	一人	勅任	
帝室財産ノ事ヲ掌ル			
主事	一人	奏任	
主事補	二人	奏任	
屬			判任
侍醫局			
長官	一人	勅任	
侍醫局ノ事ヲ總掌ス			
侍醫			勅任又ハ奏任

診候及宮中衛生ノ事ヲ掌ル			
醫員			判任
藥劑師			判任
屬			判任
調度局			
局長	一人	奏任	
御服調度及宮中需用物品ノ事ヲ掌ル			
次長	一人	奏任	
屬			判任
華族局			
長官	一人	勅任	
華族管理ノ事ヲ掌ル			
主事	一人	奏任	
主事補	二人	奏任	
屬			判任
皇族職員			
親王家別當	一人	勅任	
親王ノ家事ヲ掌ル			

家令 一人 奏任
 家扶 判任
 家從 判任

○外務省官制

明治十九年二月
勅令第2號抄録

外務省

- 第一條 外務大臣ハ外國ニ對スル政略ノ施行及外國ニ於ケル我國貿易ノ保護ニ關スル事務ヲ管理シ交際官及領事ヲ監督ス
- 第二條 外務大臣官房ニ秘書官三人ヲ置ク
- 第三條 外務省ニ翻譯官五人ヲ置ク奏任トス
- 第四條 外務省總務局ニ書記官四人ヲ置キ通則ニ掲グルモノ、外政務課人事課及電信課ヲ置ク
- 第五條 政務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一、政務ニ關スル訓令及往復通信書ノ起草
 - 二、條約ノ施行及註釋ニ關スル事項
 - 三、在外我國臣民ニ關スル事項及外國旅行券ニ關スル事項
 - 四、外國臣民ノ携帶スヘキ内地旅行免狀ニ關スル事項
 - 五、交際官及領事ノ任免黜陟ニ關スル事項
 - 六、交際官ノ委任狀赴任及再任國書解任狀及御親翰ニ關スル事項

第六條 人事課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一、外國交際官ノ謁見及其禮遇ニ關スル事項
- 二、本邦ニ駐劄スル外國交際官並領事ノ氏名爵位勳等及其赴任就職解任ノ年月日ヲ名簿ニ詳記シ及外國官並人民ノ叙勳ニ關スル事項
- 三、本邦ニ駐在スル各國領事ノ認可狀ニ關スル事項
- 第七條 電信課ニ於テハ省中ヨリ發送シ及省中ニ接受スル一切ノ電信ヲ取扱フ
 通常電信ノ往復ハ課長ノ見込ニ依リ其課員ヲシテ處分セシムルコトヲ得ヘシト雖モ暗號電信ノ往復ハ課長自ラ之ヲ取扱フヘシ
- 第八條 外務省參事官ハ無任所外交官ヲ以テ之ニ充ツ
- 第九條 外務省中左ノ諸局ヲ置ク

- 通商局
- 取調局
- 翻譯書
- 記錄局
- 會計局

- 第十條 通商局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一、通商航海條約ノ締結ニ關スル事項
 - 二、領事權限ニ關スル事項

- 三、萬國ニ關涉スル電信郵便
- 四、前數項ニ關シ在外交際官領事及主務ノ各省ト商議スル事
- 五、外國ニ於ケル我國ノ貿易ニ關スル事項
- 六、領事管掌ノ事務施行ニ關スル事項
- 七、領事館ニ於テ徵收スヘキ手數科ニ關スル事項
- 八、領事ノ委任及解任ニ關スル事項
- 第十一條 取調局ニ第一課及第二課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム
- 第十二條 第一課ニ於テハ萬國公法ニ關スル事項ヲ審接シ第二課ニ於テハ萬國私法ニ關スル事項ヲ審接ス
- 第十三條 第一課及第二課ニ於テ審接ヲ要スル事項ハ大臣ノ時々指命スル所ニ依ル
- 第十四條 翻譯局ニ於テハ法律命令ノ發布アル毎ニ之ヲ外國文ニ翻譯シ又ハ本省ノ公文ヲ國文若クハ外國文ニ翻譯スル事ヲ掌ル
- 第十五條 會計局ハ通則ニ揭クルモノ、外在外公使館及領事館ノ豫算並決算ノ事ヲ掌ル
- 第十六條 記録局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一、條約書圖書及外交往復ノ文書ヲ保存スル事
 - 二、本省各局課ノ文書ヲ編纂シ其事務ヲ分ツ事
 - 三、事件ノ交錯シ若クハ記録ノ混淆ニ涉ルモノハ每件提要書ヲ作り參照ニ便ナラシム

ムル事

- 四、公使及領事ノ報告ヲ編纂シ及之ヲ公刊スル事
- 五、本省所屬ノ内外圖書書籍ヲ保存シ其目錄ヲ製スル事
- 六、文書圖書書籍出入ノ規定ヲ設クル事

○内務省官制 明治十九年二月
勅令第二號抄録

内務省官制

- 第一條 内務大臣ハ地方行政警察監獄土木衛生地理社寺出版版權戶籍賑恤救濟ニ關スル事務ヲ管理シ中央衛生會警視總監及地方官ヲ監督ス
- 第二條 内務大臣官房ニ秘書官二人ヲ置ク
- 第三條 内務省總務局ニ書記官五人ヲ置キ通則ニ揭クルモノ、外戶籍課及圖書ヲ置ク
- 第四條 戶籍課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 戶口調査ニ關スル事項
 - 二 民籍ニ關スル事項
 - 三 内外國人轉籍ニ關スル事項
 - 四 恩給ニ關スル事項
 - 五 奇特者賞與ニ關スル事項
- 第五條 圖書課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 圖書ノ出版及版權ニ關スル事項
- 二 圖書保存ノ事
- 三 外國文書翻譯ノ事

第六條 內務省參事官ハ八人ヲ以テ定員トス

第七條 內務省ニ監獄巡閱官ヲ置キ參事官ヲ以テ之ヲ兼テシメ監獄巡察ノ事ニ從ハシム

第八條 內務省中左ノ諸局ヲ置ク

縣治局

警保局

土木局

衛生局

地理局

社寺局

會計局

第九條 縣治局ニ府縣課郡區課及地方費課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム

第十條 府縣課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 府縣會ニ關スル事項
- 二 地方稅賦課徵收及支出ニ關スル事項

三 地方稅經濟ニ屬スル財產ニ關スル事項

四 賑恤救濟ニ關スル事項

五 地方行政事務ニシテ他ノ主管ニ屬セサル事項

第十一條 郡區課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 區町村會水利土功會ニ關スル事項

二 區町村費賦課徵收及支出ニ關スル事項

三 區町村共有物ニ關スル事項

四 徵發ニ關スル事項

五 行旅病人及行倒人ニ關スル事項

第十二條 地方費課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 府縣官郡區長俸給ニ關スル事項

二 府縣廳費ノ支辨ニ關スル事項

三 府縣廳舍建築修繕ニ關スル事項

四 備荒儲蓄ニ關スル事項

五 賦金ノ賦課徵收ニ關スル事項

第十三條 警保局ニ警務保安課及監獄課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム

第十四條 警務課ニ在テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 行政警察ニ關スル事項

- 二 警察ニ關スル府縣ノ成規及其施行ニ關スル事項
 - 三 警察官吏ノ職務ニ關スル事項
 - 四 警察署ニ關スル事項
 - 五 警察費ニ關スル事項
 - 六 警察上ノ褒賞及吊祭扶助療治料給與ニ關スル報告ノ事
- 第十五條 保安課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 新聞紙雜誌雜報等ノ檢閲並發行ニ關スル事項
 - 二 政治風俗ニ關スル圖書檢閲ノ事
 - 三 政治ニ關スル結社集會ノ事項
- 第十六條 監獄課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 監獄ノ管理ニ關スル事項
 - 二 監獄官吏ノ職務ニ關スル事項
 - 三 監獄費ニ關スル事項
 - 四 監獄建築ニ關スル事項
 - 五 囚徒押送並發遣ノ事
 - 六 囚徒假出獄ニ關スル事項
- 第十七條 土木局ニ治水課道路課及計算課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム
- 第十八條 治水課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 本省直轄ノ河川堤防港灣等ノ工事ニ關スル事項
 - 二 府縣ノ經營ニ屬スル河川堤防港灣等ノ工事ヲ監督スル事
- 第十九條 道路課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 本省直轄ノ道路橋梁等ノ工事ニ關スル事項
 - 二 府縣ノ經營ニ屬スル道路橋梁等ノ工事ヲ監督スル事
- 第二十條 計算課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 直轄工事ノ費用豫算決算並出納ニ關スル事項
 - 二 府縣ノ工事ニ付官費補助其他費用ニ關スル事項
- 第二十一條 衛生局ニ衛生課及醫務課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム
- 第二十二條 衛生課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 傳染病地方病豫防ニ關スル事項
 - 二 檢疫停船規則施行ニ關スル事項
 - 三 住所飲食並職業ニ關スル公衆衛生ノ事項
 - 四 種痘及檢徽ニ關スル事項
 - 五 人體ノ衛生ニ關スル獸畜病豫防ノ事項
 - 六 地方衛生會ニ關スル事項
 - 七 貧民施療ニ關スル事項
- 第二十三條 醫務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 醫劑藥劑師產婆ノ業務ニ關スル事項
 - 二 地方病院ニ關スル事項
 - 三 藥品並賣藥取締ニ關スル事項
 - 四 屍體解剖ニ關スル事項
 - 五 鑛泉取締ニ關スル事項
- 第二十四條 地理局ニ地籍課地誌課及觀測課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム
- 第二十五條 地籍課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 地籍調整ニ關スル事項
 - 二 官有地管理ニ關スル事項
 - 三 公用土地買上ニ關スル事項
 - 四 地所名稱並地種目變換ニ關スル事項
 - 五 官民有未定地及社寺地處分ニ關スル事項
 - 六 舊跡名所公園地等ニ關スル事項
 - 七 外國人居留地地所ニ關スル事項
 - 八 海面區域並水面埋立ニ關スル事項
 - 九 土石採掘ニ關スル事項
 - 十 官有地生産物ニ關スル事項
- 第二十六條 地誌課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 地誌編纂ノ事
 - 二 地圖調製ノ事
- 第二十七條 觀測課ニ於テハ左ノ事項ヲ掌ル
- 一 觀象測候ノ事
 - 二 曆書調査ノ事
- 第二十八條 社寺局ニ神社課及寺院課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム
- 第二十九條 神社課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 神宮及官國幣社ニ關スル事項
 - 二 神社社格及明細帳ニ關スル事項
 - 三 官社並招魂社ノ經費營繕等ニ關スル事項
 - 四 古社保存並神社財產ニ關スル事項
 - 五 神道各派ノ教規等ニ關スル事項
- 第三十條 寺院課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 寺院明細帳ニ關スル事項
 - 二 古寺保存並寺院財產ニ關スル事項
 - 三 佛道各宗ノ宗制等ニ關スル事項
- 第三十一條 會計局ハ通則ニ據クルモノ、外本省所轄ニ屬スル廳府縣等ノ豫算並決算ノ事ヲ掌ル

○大藏省官制

明治十九年三月
勅令第二號抄録

大藏省官制

第一條 大藏大臣ハ歳入歳出租税國債貨幣及銀行ニ關スル事務ヲ管理シ地方ノ財務ヲ監督ス

第二條 大藏大臣官房ニ秘書官二人ヲ置ク

第三條 大藏省総務局ニ書記官五人ヲ置キ通則ニ掲クルモノ、外傳票課監督課備荒儲蓄課及整理課ヲ附キ其事務ヲ分掌セシム

第四條 傳票課ハ左ノ規程ニ依リ國庫金ノ支出傳票ノ事ヲ掌ル

一 各應經費金準備金及預ケ入金等ノ支出ニ關スル大臣ノ決裁書ニ依リ傳票ヲ調製スハシ

二 傳票ハ正副兩葉ニ認メ正ハ之ヲ金庫局ニ送付シ副ハ之ヲ課中ニ保存スハシ

三 傳票調製ノ上ハ官房ニ就キ大臣官印ノ捺押ヲ求ムハシ

四 毎月ノ初メニ於テ前月分ノ收入支出ヲ計表ニ登記シ主計出納金庫ノ三局長立會ノ上大臣面前ニ於テ照査ヲ爲スハシ

五 傳票計表ノ様式等ハ別ニ定ムル所ノ規程ニ依ルハシ

第五條 監督課ハ左ノ規程ニ依リ保護會社ノ會計ヲ監督シ及官鐵工業ノ景況等ヲ調査スル事ヲ掌ル

一 日本鐵道會社各區興業ノ費額ヲ檢按スハシ

二 前項會社營業上收入支出ヲ檢按スハシ

三 日本郵船會社會計ニ屬スル事件ヲ監査スハシ

四 前項會社收入支出及其所有ニ屬スル財産ヲ監督檢査スハシ

五 官鐵工業ノ景況ヲ調査スハシ

六 官鐵工業ニ關スル事項ヲ調理スハシ

七 官鐵產出物ノ員額ヲ類別調査スハシ

八 人民ヘ貸下又ハ拂下代金未済ノ各鐵山及工場ノ事業ヲ監査スハシ

第六條 備荒儲蓄課ハ左ノ規程ニ依リ中央及府縣ノ備荒儲蓄金穀ニ關スル事ヲ掌ル

一 中央儲蓄金ノ事務ヲ調理シ及米穀ノ購賣交換ヲ處理スハシ

二 府縣儲蓄金ノ出納報告ヲ精査シ及其金穀管守ノ檢査ヲ爲スハシ

三 毎年度中央儲蓄金及府縣儲蓄金出納報告ヲ調理スハシ

四 各所儲藏ノ米穀ヲ管守出納シ及米廩ヲ保護スハシ

第七條 整理課ハ左ノ規程ニ依リ諸貸付金取立ノ事ヲ掌ル

一 諸貸付金補助ノ帳簿ヲ設ケ其事由ヲ詳記シ金額ノ徵収ニ係ル計算ヲ爲スハシ

二 諸貸付金ノ取立高豫算ヲ立テ之ヲ徵収シテ國庫ニ上納スハシ

三 諸貸付金ノ年賦割替或ハ棄捐或ハ利引一時上納等ノ事ヲ處理スハシ

四 諸貸付金ニ對シ各屬ヨリ送付スル所ノ勘定帳及計表等ヲ査閲シ精算ノ證認ヲ爲スハシ

第八條 大藏省參事官ハ五人ヲ以テ定員トス

第九條 大藏省ニ主計官十人ヲ置ク矣任トス主計局出納局國債局及金庫局ニ分屬シテ官金ノ管守出納并ニ簿記計算ノ事ヲ掌ラシメ各局ノ須要ニ從ヒ大臣ノ命ヲ承ケテ局中各課ノ長ヲ兼ヌルコトヲ得

第十條 大藏省ニ主稅官十六人ヲ置ク矣任トス主稅局關稅局ニ分屬シテ諸稅ニ關スル事務ヲ掌ラシメ各局ノ須用ニ從ヒ大臣ノ命ヲ承ケテ局中各課ノ長ヲ兼ヌルコトヲ得

第十一條 大藏省中左ノ諸局ヲ置ク

- 主稅局
- 關稅局
- 主計局
- 出納局
- 國債局
- 金庫局
- 銀行局
- 預金局
- 記錄局

第十二條 主稅局ニ調査課地租課酒稅課印紙稅課雜稅課地方稅課監査課計算課徵稅

費課及統計課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム

第十三條 調査課ハ左ノ規程ニ依リ稅則ノ執行ニ關スル事ヲ掌ル

一 稅則取扱ニ關スル文案ヲ調査スヘシ

第十四條 地租課ハ左ノ規程ニ依リ地租ニ關スル事ヲ掌ル

一 地租及地券ニ關スル文案ヲ起草調査スヘシ

二 新夕ニ地價ヲ定メ又ハ地價修正ニ關シ當否ヲ調査スヘシ

三 地租臺帳ヲ整理スヘシ

四 地租ノ免除ニ關スル事務ヲ調査スヘシ

五 開墾餘下年期荒地免租年期低價年期及其地價租額ノ當否ヲ調査シ其臺帳ヲ整理スヘシ

六 地租表ヲ調査スヘシ

第十五條 酒稅課ハ左ノ規程ニヨリ酒造稅等ニ關スル事ヲ掌ル

一 酒造稅醬油稅等ニ關スル文案ヲ起草調査スヘシ

第十六條 印紙稅課ハ左ノ規程ニ依リ諸印紙稅等ニ關スル事ヲ掌ル

一 烟草稅證券稅賣藥稅等ニ關スル文案ヲ起草調査スヘシ

二 諸印紙地券用紙及鑑札用紙ノ製造管守出納ニ關スル事務及受拂計算表ヲ調査處理スヘシ

第十七條 雜種稅課ハ左ノ規程ニ依リ諸種ノ雜稅ニ關スル事ヲ掌ル

一 船稅車稅會社稅統獵稅牛馬賣買免許稅度量衡稅等ニ關スル文案ヲ起草調査スヘシ

第十八條 地方稅課ハ左ノ規程ニ依リ地方稅ニ關スル事ヲ掌ル

一 地方稅ニ關スル文案ヲ起草調査スヘシ

二 地方稅ノ課目課額ヲ調査スヘシ

第十九條 監查課ハ左ノ規程ニ依リ府縣稅務監查ノ事ヲ掌ル

一 府縣ノ稅及徵稅費支辨ノ實況ヲ監查スヘシ但監查規則ハ別ニ定ムル所ニ依ルヘシ

二 監查員ノ報告ヲ調査スヘシ

三 府縣檢査區畫檢査員配置計畫檢査及事務取扱方法ノ適否ヲ調査スヘシ

四 府縣徵稅費ノ配賦又増減ノ議ニ參スヘシ

五 府縣檢稅ニ關スル諸規則ヲ檢閱スヘシ

第二十條 計算課ハ左ノ規程ニ依リ諸稅計算ノ事ヲ掌ル

一 租稅ノ豫算意見書ヲ編製スヘシ

二 地租ヲ除キ其他ノ諸稅表ヲ調査スヘシ

三 租稅収納報告書ヲ整理スヘシ

四 租稅ノ缺損又ハ除却ニ關スル事項ヲ調査スヘシ

五 年賦延納及過年度進納ニ關スル事項ヲ整理スヘシ

第二十一條 徵稅費課ハ左ノ規程ニ依リ府縣徵稅費ニ關スル事ヲ掌ル

一 府縣徵稅費ノ豫算ヲ調理スヘシ

二 府縣徵稅費配賦ノ事務ヲ調理スヘシ

三 府縣徵稅費ニ關スル文案ヲ起草調査スヘシ

四 府縣徵稅費ノ決算ヲ調理スヘシ

第二十二條 統計課ハ左ノ規程ニ依リ租稅ニ關スル諸統計ノ事ヲ掌ル

一 租稅ニ關スル事務ノ諸統計表ヲ編製スヘシ

二 統計表編製ノ材料ヲ蒐集スヘシ

三 租稅ニ關スル事項ヲ調査シ統計書及年報書ヲ編製スヘシ

四 府縣收稅ノ統計表及年報書ヲ審查シ其要件ヲ簡拔シテ通覽表ヲ編製スヘシ

第二十三條 關稅局ニ常務課調査課及製表課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム

第二十四條 常務課ハ左ノ規程ニ依リ海關稅諸規則ノ執行ニ關スル事ヲ掌ル

一 海關稅諸規則ノ執行ニ關スル文案ヲ起草調査スヘシ

二 海關稅務ニ關シ諸官廳トノ往復文案ヲ取扱フヘシ

三 稅關ニ屬スル地所建物船舶及其他諸物件ニ關スル事務ヲ調査スヘシ

四 海關稅豫算意見書ヲ編製スヘシ

五 海關稅收納金額報告書ヲ整理スヘシ

六 物品貨幣輸出入ノ景況ニ依リ海關稅收入ノ増減ヲ調査スヘシ

七 築地出張所ノ事務ヲ監査スヘシ

第二十五條 調査課ハ左ノ規程ニ依リ内外物品ノ市價及海關稅率ノ當否調査ノ事ヲ掌ル

一 内外物品ノ市價ヲ調査シテ海關稅率及課稅ノ當否ヲ勘按スヘシ

二 内外貿易ノ盛衰ヲ調査シテ定期報告書ヲ調製スヘシ

三 海外各國ノ通商條約及稅關規則ヲ調査スヘシ

四 海關稅務ニ關シ外國人ト往復スル文書及一切ノ洋文ヲ調理スヘシ

第二十六條 製表課ハ左ノ規程ニ依リ貿易ニ關スル諸表編製ノ事ヲ掌ル

一 輸出入物品貨幣及出入港船舶ノ統計ニ關スル事項ヲ調査スヘシ

二 外國貿易ニ關スル年表及諸表ヲ編製スヘシ

第二十七條 主計局ニ主簿課總算課及課歲出第一課歲出第二課地方財務課官

有物品財產會計課雜種金課及調査課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム

第二十八條 主簿課ハ左ノ規程ニ依リ歲入歲出ノ原簿日記簿補助簿等登記ノ事ヲ掌ル

一 歲入歲出豫算原簿日記簿補助簿內譯簿ヲ備ヘ之レニ決定豫算及其増減額現收入支出ヲ登記スヘシ

二 國庫總原簿日記簿補助簿內譯簿ヲ備ヘ現收入現支出ヲ登記スヘシ

三 歲入歲出各廳區分簿ヲ備ヘ現收入現支出ヲ登記スヘシ

四 諸帳簿ノ計表報告表及報告書ノ名稱様式ハ別ニ定ムル所ニ據ルヘシ

五 歲入歲出豫算原簿日記簿補助簿國庫總原簿日記簿補助簿ノ登記計算及諸計表調理帳整理ノ方法ハ別ニ定ムル所ニ依ルヘシ

六 各廳及府縣會計上計算記簿様式ニ係ル一切ノ事項ヲ處理スヘシ

第二十九條 總豫算決算課ハ左ノ規程ニ依リ國庫總體ノ歲入歲出豫算書及決算報告書

調製ノ事ヲ掌ル

一 各廳ノ歲計豫算書ニ據リ國庫總體ノ歲計豫算ノ概計ヲ爲スヘシ

二 歲入課歲出課及地方財務課ニ於テ調査セシ各廳ノ歲計豫算書ヲ再查シ國庫總體ノ豫算書ヲ調製スヘシ

三 歲入課歲出課及地方財務課ニ於テ調査セシ各廳ノ決算報告書ヲ再查シ國庫歲入

出總決算報告書ヲ編製スヘシ

四 歲入歲出ノ科目ヲ調理スヘシ

第三十條 歲入課ハ左ノ規程ニ依リ各廳所屬歲入ノ豫算決算及收入調理ノ事ヲ掌ル

一 各廳ノ歲入豫算書ヲ檢案調理スヘシ

二 各廳ノ歲入豫算増減報告書ヲ檢案調理スヘシ

三 各廳歲入仕譯書ヲ檢案調理スヘシ

四 各廳ヨリ送付スル諸報告書ヲ前項ノ仕譯書ニ照合シ歲入ノ未納アルモノハ其督促ノ手續ヲ爲スヘシ

五 各廳ノ收納報告書ヲ主簿課ノ歲入各廳區分簿ト對查照合スヘシ

- 六 各廳ノ歳入決算報告書ヲ檢案調理スヘシ
 - 七 大藏省證券ノ發行高及臨時借入金ヲ檢査スヘシ
- 第三十一條 歳出第一課ハ左ノ規程ニ依リ各廳歳出ノ豫算決算及支出調理ノ事ヲ掌ル
- 一 帝室内閣外務省大藏省陸軍省海軍省司法省文部省農商務省逓信省元老院所管ノ歳出豫算書ヲ檢案調理スヘシ
 - 二 前項各廳ノ歳出豫算流用豫算増減額及別途支出ヲ檢案調理スヘシ
 - 三 前項各廳歳出仕譯書ヲ檢案調理スヘシ
 - 四 前項各廳ヨリ送付スル支出報告書ヲ仕譯書ニ照合スヘシ
 - 五 前項各廳ノ支出報告書ヲ主簿課ノ歳出各廳區分簿ト對查照合スヘシ
 - 六 前項各廳ノ歳出決算報告書ヲ檢案調理スヘシ
- 第三十二條 歳出第二課ハ左ノ規程ニ依リ各廳歳出ノ豫算決算及支出調理ノ事ヲ掌ル
- 一 内務省北海道廳各府縣ノ歳出豫算書ヲ檢案調理スヘシ
 - 二 前項各廳ノ歳出豫算流用豫算増減額及別途支出ヲ檢案調理スヘシ
 - 三 前項各廳歳出仕譯書ヲ檢案調理スヘシ
 - 四 前項各廳ヨリ送付スル支出報告書ヲ仕譯書ニ照合スヘシ
 - 五 前項各廳ノ支出報告書ヲ主簿課ノ歳出各廳區分簿ト對查照合スヘシ
 - 六 前項各廳ノ歳出決算報告書ヲ檢案調理スヘシ
- 第三十三條 地方財務課ハ左ノ規程ニ依リ地方費ニ關スル收入支出ノ事ヲ掌ル

- 一 國庫支辨地方費ノ豫算書及其流用増減額ヲ檢案調理スヘシ
 - 二 地方税ノ收入支出豫算書ヲ調査スヘシ
 - 三 國庫支辨地方費支出及其決算報告書ニ關スル事項ヲ處理スヘシ
 - 四 地方税收入支出精算報告書ヲ調査スヘシ
 - 五 地方税收入支出精算ニ關スル府縣曾意見書ノ處分案ヲ審査スヘシ
- 第三十四條 官有財産物品會計課ハ左ノ規程ニ依リ政府所有ノ財産及各廳物品出納調理ノ事ヲ掌ル
- 一 官有財産ニ關スル事件ヲ檢案調理スヘシ
 - 二 物品ノ出納ニ關スル事件ヲ調理スヘシ
- 第三十五條 雜種金課ハ左ノ規程ニ依リ起業基金中山道鐵道基金其他各種別途金ノ事ヲ掌ル
- 一 起業基金中山道鐵道基金勸業資本金其他別途金ノ收入支出豫算決算ニ係ル事務ヲ處理スヘシ
 - 二 準備金中央儲蓄金預リ金ノ收入支出ニ係ル主任官ノ稟議書ヲ檢案調理スヘシ
 - 三 府縣勸業委託金ノ精算及増減稟摺等ノ申稟ヲ處理スヘシ
 - 四 常用歳入歳出外特ニ金庫ノ一部ヲ設ケ之カ收入支出ヲ爲スコトアルトキハ皆本課ニ於テ處理スヘシ
 - 五 勸業資本ノ收入支出ヲ檢案調理スヘシ

第三十六條 調査課ハ左ノ規程ニ依リ各廳及府縣ノ會計規程及支給法ニ關スル事ヲ掌

ル

- 一 各廳及府縣ノ會計規程ヲ調査スヘシ
- 二 旅費其他支給ノ事項ヲ成規ニ照ラシ調査スヘシ

第三十七條 出納局ニ配賦課準備金課及監査課ヲ置其事務ヲ分掌セシム

東京金庫内扉ノ鎖鑰ハ出納局長之ヲ管守ス

第三十八條 配賦課ハ左ノ規程ニヨリ國庫金運轉配賦ノ事ヲ掌ル

- 一 現金ノ配賦ハ豫算決定額及豫算仕譯書ニ據リ之ヲ計畫スヘシ
- 二 前項收入支出金ハ金庫局ノ報告ニ據リ現金所在及各部ノ金種類ヲ區分記帳スヘシ但諸帳簿并ニ記帳ノ順序ハ別ニ定ムル所ニ依ルヘシ
- 三 各廳ノ支出金ハ其原議ニ依リ之ヲ支出命令簿ニ登記シ金庫局現金支出報告書ヲ得テ其整理ヲ爲スヘシ
- 四 現金配賦ノ爲メ之ヲ各地ニ回送スルトキハ大臣ノ命ヲ受ケ金庫局ニ通知ノ順序ヲ爲スヘシ
- 五 國庫金運轉及配賦上ニ關スル内外財務ノ狀況ヲ精査スヘシ
- 六 歳入ニ先子歳出ヲ要スルルハ大藏省証券ヲ發行シ或ハ一時借入金ヲ爲シ其利子ヲ定メ及之ヲ償還シ又ハ國庫ニ餘裕アリテ定期預ケ金ヲ爲ス等ノ案ヲ起草スヘシ

シ

第三十九條 準備金課ハ左ノ規程ニ依リ準備金ニ關スル事ヲ掌ル

- 一 金銀銅地金ノ購收及所管ノ公債證書諸株券等ノ取扱ヲ爲スヘシ
- 二 紙幣兌換基金交付ノ順序ヲ爲スヘシ但其方法ハ別ニ定ムル所ニ依ルヘシ
- 三 外國荷爲換ノ事ヲ取扱フヘシ但其方法ハ別ニ定ムル所ニ依ルヘシ
- 四 準備金ノ補助簿ヲ設ケ其出納ヲ登記スヘシ

第四十條 監査課ハ左ノ規程ニ依リ金庫國庫金取扱所現金支拂所監査ノ事ヲ掌ル

- 一 東京金庫ノ開閉及其現金ノ出納ヲ監査スヘシ
- 二 東京大坂金庫日本銀行(國庫金ニ屬スル部分)橫濱正金銀行(同上)各地國庫金取扱所現金支拂所ヲ監督シ及其收入支出ノ順序ヲ定メ其諸帳簿ヲ檢査スヘシ

第四十一條 國債局ニ公債課恩給課及計算課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム

第四十二條 公債課ハ左ノ規程ニ依リ諸公債紙幣證券等ニ關スル事ヲ掌ル

- 一 内外公債ニ關スル各廳ノ文書ヲ處理スヘシ
- 二 内外公債證書大藏省證券發行 交換ノ事務ヲ處理スヘシ
- 三 内外公債及紙幣ノ補助簿ヲ設ケ其増減ヲ登記スヘシ
- 四 内外公債證書ノ記番號帳ヲ備ヘ之ヲ整理スヘシ
- 五 内外公債元利金償還及雜費ノ豫算ヲ調理スヘシ
- 六 内外公債一時借入金紙幣償還ノ實況ニ由リ其方法更正ノ順序ヲ調理スヘシ
- 七 内外公債一時借入ノ元利金及雜費支拂ノ順序ヲ爲スヘシ

- 八 内外公債抽籤滿期繰上ケ償還並ニ一時借入金ノ元利金償還及紙幣銷却ノ事務ヲ處理スヘシ
- 九 紙幣交換基金ヲ日本銀行ニ交付シ及交換濟紙幣ヲ同銀行ヨリ受取り金庫局ニ送付スルノ手續ヲ爲スヘシ
- 十 金庫局ヨリ交換濟紙幣調査濟ノ報告ヲ受ケ帳簿ヲ整理スヘシ
- 十一 拂濟内國公債證書及利賦札ハ之ヲ記録局ヘ送付シ同局ノ證明ヲ得テ其決算ノ順序ヲ爲スヘシ
- 十二 拂濟外國公債證書及利賦札ヲ燒却シタル報告ヲ得テ之レカ決算ノ順序ヲ爲スヘシ
- 十三 内國公債證書及大藏局證券ニ關スル訓令告示ノ順序ヲ爲スヘシ
- 第十四條 恩給課ハ左ノ規程ニ依リ文武官其他恩給ノ年金等ニ關スル事ヲ掌ル
 - 一 賞勳年金官吏恩給扶助料退官賜金軍人恩給扶助料賑恤金給助金沖繩縣士族ノ金祿同縣社寺役俸ニ關スル文書ヲ處理スヘシ
 - 二 前項賜金ノ臺帳ヲ備ヘ之ヲ整理スヘシ
 - 三 前項賜金ノ豫算ヲ調理スヘシ
 - 四 前項賜金交付ノ順序ヲ爲スヘシ
 - 五 諸祿追給ニ關スル申稟ヲ處理スヘシ
- 第四十四條 計算課ハ左ノ規程ニ依リ簿記計算整理ノ事ヲ掌ル

- 一 公債恩給等ニ關スル出納ノ計算ヲ調理スヘシ
- 二 本局ノ原簿日記簿及補助簿ヲ備ヘ其登記ヲナスヘシ
- 三 本局ノ收入支出ニ關スル金券ヲ管守シ及之カ出納ヲ爲スヘシ
- 四 公債元利金償還并ニ年金恩給諸祿等ノ豫算ヲ編製シ及之カ決算ノ順序ヲ爲スヘシ
- 五 各廳及銀行ヨリ送付シタル勘定帳ヲ査閲シ其精算證認ノ順序ヲ爲スヘシ
- 六 本局主務ノ諸計表及報告書ヲ調製スヘシ
- 第四十五條 金庫局ニ主金課收支課及計算課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム
 - 東京金庫外扉ノ鎖鑰ハ金庫局長之ヲ管守ス
- 第四十六條 主金課ハ左ノ規程ニ依リ金庫ノ開閉現金ノ出納及國庫金取扱所現金支拂所管理ノ事ヲ掌ル
 - 一 東京金庫大阪日本銀行(國庫金ニ關スル部分)橫濱正金銀行(同上)及各地國庫金取扱所現金支拂所ヲ管理スヘシ
 - 二 東京金庫現金ノ監守ニ從事スヘシ但其規程ハ別ニ定ムル所ニ依ルヘシ
 - 三 各金庫現金ノ收入支出ハ出納規則及支出傳票ニ依リ之ヲ執行スヘシ但其順序ハ別ニ定ムル所ニ依ルヘシ
 - 四 現金所在ノ移轉ニ係ル令達書ヲ調製スヘシ
 - 五 收支課ニ拂元金ヲ渡シタルトキハ證印簿ニ登記證印セシムヘシ但其順序ハ別ニ

- 定ムル所ニ依ルヘシ
- 六 大阪金庫各地國庫金取扱所又ハ現金仕拂所ヨリ計算課ヲ經テ送付スル毎日現金出納報告ヲ精査シ國庫ノ總現金在高及ヒ其種類ヲ記帳シ日計表ヲ調製スヘシ
- 七 紙幣兌換基金ヲ日本銀行ニ交付シ豫備紙幣ノ受入及交換濟ノ紙幣燒却等ノ手續ヲ爲スヘシ
- 八 舊銅貨交換ニ關スル事務ヲ調理シ基金回送等ノ順序ヲ爲スヘシ
- 九 收入金鑑定未濟ノ現金ハ收支課ノ請求ニ應ジ金庫ニ保護スヘシ
- 十 諸抵當品ヲ預リ之ヲ金庫ニ保存スヘシ
- 第四十七條 收支課ハ左ノ規程ニ依リ各應經費金ノ支拂及納付金ノ受入損偽紙幣交換ノ事ヲ掌ル
 - 一 收入金ハ現金收入所ニ於テ鑑定入濟ノ上受渡證印簿ニ登記シ之ヲ主金課ニ送付シ領收ノ證印ヲ受クヘシ但其順序ハ別ニ定ムル所ニ依ルヘシ
 - 二 收入所ニ納入セシ上納證書ハ之ヲ計算課ニ送付スヘシ
 - 三 國庫金取扱所其他ヨリ送付スル送金手形ハ之ヲ書留簿ニ記載シ其期日ニ至リ送金手形ノ取付ヲ爲スヘシ
 - 四 贋造貨幣及贋造描改紙幣ヲ發見シタルトキハ之ニ其事由書ヲ添ヘ警察官ニ通知ノ順序ヲ爲スヘシ
 - 五 損傷紙幣ノ交換ヲ爲シタルトキハ其都度國債局及計算課ニ通知スヘシ

- 六 交換濟紙幣ヲ國債局ヨリ受取リタルトキハ其具體ヲ調査シ國債局ニ報告シ紙幣ハ之ヲ記録局ニ送付スヘシ
- 七 廢棄紙幣ニハ大藏卿ノ印章及數位ノ打抜キヲ爲スヘシ
- 八 各應ヨリ支拂案内券到着スレハ支出傳票ト照査シ其支拂ノ順序ヲナスヘシ
- 九 毎日支拂金ノ豫算ヲ立テ之ヲ主金課ヨリ受取置キ各應ノ支拂切符ニ引換現金ヲ交付スヘシ但支出金ヲ帳簿ニ登記シ之ヲ計算整理スルノ順序ハ別ニ定ムル所ニ依ル
- 十 現金支拂濟ノ切符ハ之ヲ計算課ニ送付スヘシ
- 第四十八條 計算課ハ左ノ規程ニ依リ簿記計算整理ノ事ヲ掌ル
 - 一 收支課ヨリ上納證書及支拂切符ヲ受取リタルトキハ之ニ依リテ收入支出ノ記帳ナスヘシ
 - 二 大坂金庫各地國庫金取扱所現金支拂所ヨリ送付スル毎日現金出納報告ニ由リ收入支出ノ金額ヲ記帳スヘシ但帳簿ノ組織登記ノ方法等ハ別ニ定ムル所ニ依ルヘシ
 - 三 毎日收入支出ノ金額ハ各目各應各金種類ニ區分シ之カ報告表ヲ調製シ主計局及出納局ニ報知スヘシ
 - 四 政府紙幣流通額及交換紙幣ノ員額ヲ調理シ之カ計算ヲ整理スヘシ
 - 五 國庫金運搬ニ係ル費用其他取扱料并ニ手数料等ハ之ヲ調査シ會計局ニ通知スヘシ

シ

- 第四十九條 金庫局大坂出張所ハ左ノ規程ニ依リ大坂金庫現金ノ管守及日本銀行大坂支店(國庫金ニ屬スル部分)管理ノ事ヲ掌ル金庫ノ鎖鑰ハ出張所長之ヲ管守スヘシ
- 一 大坂金庫ノ監守及日本銀行支店(國庫金ニ屬スル部分)ノ管理ヲ爲スヘシ
 - 二 本局ノ指揮ニ依リ現金ノ收支及諸抵當品ノ保管ヲ爲スヘシ
 - 三 本局ノ指揮若クハ各屬ノ請求ニ應シ各地ニ送金ノ取扱ヲ爲スヘシ
 - 四 送金案内券ニ對スル金員ヲ取付ケ又ハ交換紙幣ノ大藏卿印章及數位ノ打扱ヲ爲スヘシ
 - 五 賸造貨幣又ハ賸造捕改紙幣ヲ發見シタルトキハ本局同様ノ手續ヲ爲スヘシ
 - 六 收支ノ證書ニ據リ帳簿ヲ整理シ各種ノ計表ヲ調製シテ本局ニ報告スヘシ
 - 七 金銀銅地金及成貨ノ受渡ヲ爲スヘシ但其順序ハ別ニ定ムル所ニ依ルヘシ
- 第五十條 銀行局ニ常務課調査課及報告課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム
- 第五十一條 常務課ハ左ノ規程ニ依リ各銀行營業上ニ關スル事ヲ掌ル
- 一 各銀行本支店ノ廢置移轉分合又ハ資本金増減等其他諸文書ヲ處辨スヘシ
 - 二 銀行ニ關スル文案ヲ起草調査スヘシ
 - 三 國立銀行頭取取締役ノ誓詞ヲ檢按シ支配人以上ノ姓名ヲ登錄シ其印鑑ヲ保存スヘシ
 - 四 諸銀行及之ニ類似スル會社營業上ニ關スル一切ノ事務ヲ處理スヘシ

- 五 銀行ノ營業停止及鎖店處分ニ關シ其方案ヲ起草スヘシ
 - 六 諸銀行及之ニ類似スル會社營業上犯則ノ所爲アルトキハ之カ處分案ヲ起草スヘシ
 - 七 銀行紙幣日本銀行兌換券ニ係ル事件ヲ調理スヘシ
- 第五十二條 調査課ハ左ノ規程ニ依リ各銀行ノ景況ニ就キ統計報告ノ事ヲ掌ル
- 一 諸報告及簿記計算ニ關スル告示及遠案ヲ起草調査スヘシ
 - 二 諸報告及簿記計算ニ關スル一切ノ文書ヲ調理スヘシ
 - 三 各銀行及交換所ノ報告及考課狀等ヲ調査スヘシ
 - 四 各銀行交換所及兌換券ニ係ル諸帳簿ノ記入法并ニ諸報告計表様式ノ制定又ハ改正ヲ要スルトキハ其文案ヲ起草スヘシ
 - 五 銀行鎖店ノ場合ニ際シ其資産及負債ヲ精査シ實際ノ損益ヲ證明スヘシ
 - 六 諸銀行ノ金庫帳簿諸證書及營業ノ實況ヲ檢査スヘシ
- 第五十三條 報告課ハ左ノ規程ニ依リ各銀行ノ景況ニ就キ統計報告ノ事ヲ掌ル
- 一 各銀行營業上貸借金ノ員額種類資本及諸手形ノ多寡増減其他ノ事項等各銀行ノ報告書考課狀ニ依リ每半季ニ區分統計シ其景況考察ノ用ニ便スヘシ但參考ノ爲メ歐米銀行業務ノ景況等ヲ調査スルコトヲ得
 - 二 交換所ニ於テ其交換ノ高ヲ調査シ手形ノ種類等ヲ區分統計スヘシ
- 第五十四條 預金局ニ調査課收支課及計算課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム

第五十五條 勘査課ハ左ノ規程ニ依リ各種預金ニ關スル運用利殖等ノ事ヲ掌ル

- 一 預金運用利殖ノ方案ヲ立ツヘシ
- 二 預金ノ利子額ヲ定メ或ハ之カ更正ヲ考案スヘシ
- 三 日本銀行ヘ交付スル手数料ヲ勘按スヘシ
- 四 日本銀行ヘ定期及當座預ケ入金ノ順序ヲ定ムヘシ
- 五 所管ニ屬スル正貨交換ノ方案ヲ立ツヘシ
- 六 所管ノ帳簿ヲ整理スヘシ

第五十六條 收支課ハ左ノ規程ニ依リ各種預金ノ出納ニ關スル事ヲ掌ル

- 一 預ケ入金領收交付ノ順序ヲ定メ及之ヲ處分スヘシ
- 二 驛遞局貯金ヲ受入レ及拂渡方ヲ處辨スヘシ
- 三 預ケ入金ノ通帳ヲ整理スヘシ
- 四 預ケ入金利子交付ノ順序ヲ爲スヘシ
- 五 預ケ入金ヲ國庫ニ納入シ及受取方ヲ處辨スヘシ
- 六 所管ノ諸帳簿ヲ整理スヘシ

第五十七條 計算簿ハ左ノ規程ニ依リ各種預金ノ計算報記ノ事ヲ掌ル

- 一 預金收支ノ計算ヲ總轄整理スヘシ
- 二 預金ノ種類ヲ區別スヘシ
- 三 公債證書及大藏省證券ノ價值ヲ區別シ其計算ノ方法ヲ立ツヘシ

四 所管ノ諸帳簿ヲ整理スヘシ

第五十八條 記錄局ニ編輯課及照査課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム

第五十九條 編輯課ハ左ノ規程ニ依リ省中一切ノ諸公文原書及書籍ヲ保管スル事ヲ掌ル

- 一 支出傳票ノ原書及省中ノ諸公文原書ヲ保存スヘシ
- 二 各局ノ諸原書ヲ採輯スルハ其主任局ニ於テ事務完結後三十日以内タルヘシ但計算出納ニ關スル原書ハ決算報告書完結ノ後タルヘシ
- 三 保存ノ原書類ハ各局ニ區別シテ之ヲ編輯シ其主任局課ノ需メニ應シ直ニ參觀ニ供スヘシ
- 四 本省所管ノ書冊ハ其目錄ヲ調製シ内閣記錄局ヘ勘合スヘシ
- 五 省中需用ノ書籍ヲ購收スル事務ヲ處理スヘシ
- 六 本省外各廳ノ官吏ニシテ保管書類ノ借覽ヲ請求スルモノアルトキハ大臣ノ允許ヲ得テ之ヲ借覽セシムヘシ
- 七 省中ノ官吏ニシテ書籍ノ借覽ヲ請フモノアルトキハ其規約ヲ嚴ニシテ貸付スヘシ
- 八 總テ保存ノ書類簿冊等ハ其管守ノ法ヲ嚴正ニスヘシ

第六十條 照査課ハ左ノ規程ニ依リ各種公債證書紙幣及大藏省證券ノ押印又ハ消印ノ事ヲ掌ル

- 一 各種紙幣公債証書大藏省証券等ハ其種類記號番號ヲ照査シ其面ニ押印スヘシ又紙幣証書証券等ノ支消或ハ損傷若クハ抽籤等ニテ引上ケタルモノハ檢査後之カ消印ヲ了シ燒棄ノ手續ヲ爲スヘシ
- 二 國立銀行紙幣ノ損傷交換等ニ係ル事務ヲ處理スヘシ
- 三 諸証書証券等其種類ヲ變換スルカ爲メ新舊引換ノモノアルトキハ檢査ノ後新証書類ヘハ例規ノ押印ヲナシ舊証書類ヘハ檢査後二日以内ニ消印ヲ了シ直ニ燒棄スヘシ但其手續順序ハ別ニ定ムル所ニ依ルヘシ
- 四 各公債証書ノ利札ハ檢査後燒棄スヘシ其手續順序ハ前條ノ如シ

○司法省官制

明治十九年二月
勅令第二號抄錄

朕司法省官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

司法省

- 第一條 司法大臣ハ司法ニ關スル行政司法警察及恩赦ニ關スル事務ヲ管理シ大審院以下ノ諸裁判所ヲ監督ス
- 第二條 司法大臣官房ニ秘書官二人ヲ置ク(明治二十年十二月勅令第六十一號ヲ以テ改正ス)
- 第三條 司法省總務局ニ書記官五人ヲ置キ通則ニ掲グルモノ、外職員課ヲ置ク職員課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 所部官吏ノ進退身分ニ關スル事項
- 二 裁判所附屬吏員及代官人ノ身分ニ關スル事項
- 三 諸願ニ關スル事項
- 四 判事檢事巡回會同ニ關スル事項 (同上)
- 第四條 總務局文書課ニ於テハ通則ニ掲グルモノ、外左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 裁判所ノ構成權限ニ關スル事項
 - 二 判任官普通試驗及代官人試驗ニ關スル事項
 - 三 外國文書翻譯ノ事 (同上)
- 第五條 司法省參事官ハ十五人ヲ以テ定員トス
- 第六條 司法省中左ノ諸局ヲ置ク

民事局	刑事局
民事局ニ於テハ左ノ事項ヲ掌ル	會計局

 - 一 民法訴訟法ニ關スル事項及其施行ニ關スル起案
 - 二 民事ニ關スル法律命令并裁判ノ執行ヲ監査スル事
 - 三 行政裁判ニ關スル事項
- 第八條 (明治二十年十二月勅令第六十一號ヲ以テ四、五、六項ヲ削除ス)
 - 一 刑法治罪法ニ關スル事項及其施行ニ關スル起案

- 一 死刑執行再審ノ訴非常上告特赦減刑復權假出獄免幽閉監視假免ニ關スル事項
- 三 刑事ニ關スル法律命令并裁判ノ執行ヲ監査スル事
- 四 軍事裁判ニ關スル事項
- 五 刑事裁判費用ニ關スル事項
- 第九條 會計局ハ通則ニ揭クルモノ、外大審院及諸裁判所ノ豫算并決算ノ事ヲ掌ル

○文部省官制

明治十九年二月
勅令第二號抄録

文部省官制

- 第一條 文部大臣ハ教育學問ニ關スル事務ヲ管理ス
- 第二條 文部大臣官房ニ秘書官二人ヲ置ク
- 第三條 文部省總務局ニ書記官七人ヲ置キ通則ニ揭クルモノ、外文書課ニ於テ左ノ事務ヲ掌ラシム
 - 一 外國文書翻譯ノ事
 - 二 學士會院學位教育博覽會及海外留學生ニ關スル事務 (明治二十年十月勅令第五十號ヲ以テ改正ス)
- 第四條 文部省參事官ハ七人ヲ以テ定員トス
- 第五條 文部省ニ視學官ヲ置キ學事視察ノ事ニ從ハシム
- 視學官ハ委任トシ五人ヲ以テ定員トス
- 第六條 文部省中左ノ諸局ヲ置ク (同上)

專門學務局

普通學務局

編輯局
會計局

- 第七條 專門學務局ニ第一課第二課第三課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム (同上)
- 第八條 第一課ニ於テハ帝國大學高等師範學校高等中學校高等專門學校及學術會等ニ關スル事務ヲ掌ル (同上)
- 第九條 第二課ニ於テハ技藝學校ニ關スル事務ヲ掌ル (同上)
- 第十條 第三課ニ於テハ美術學校音樂學校ニ關スル事務ヲ掌ル (同上)
- 第十一條 普通學務局ニ第一第二第三第四第五ノ五課ヲ置キ全國ヲ五部ニ分テ各其部内ノ尋常師範學校尋常中學校高等女學校小學校各種學校幼稚園圖書館博物館及教育會通俗教育等ニ關スル事務ヲ分掌セシム (同上)
- 第十二條 普通學務局課右ノ課長ハ視學官ヲ以テ之ニ充ツ (同上)
- 第十三條 編輯局ニ第一課第二課及第三課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム
- 第十四條 第一課ニ於テハ教科書ノ著譯編述及校訂ニ關スル事務ヲ掌ル
- 第十四條 第二課ニ於テハ圖書ノ印刷ニ關スル事務ヲ掌ル
- 第十五條 第三課ニ於テハ教科圖書ノ檢査ニ關スル事務ヲ掌ル
- 第十六條 會計局ハ通則ニ揭クルモノ、外本省所轄ニ屬スル諸學校等ノ豫算並決算ノ

事ヲ掌ル

農商務省官制

明治十九年三月
勅令第二號抄紙

第一條 農商務大臣ハ農業商業工藝技術漁獵山林地質鑛山及營業會社ニ關スル事務ヲ管理ス

第二條 農商務大臣官房ニ秘書官二人ヲ設ク

第三條 農商務省總務局ニ書記官七人ヲ置キ通則ニ揭クルモノ、外文書課ニ於テ左ノ事務ヲ掌ラシム

一 褒賞ニ關スル事項

二 府縣農工商諮問府縣勸業委員及府縣勸業會ニ關スル事項

三 外國文書翻譯ノ事

第四條 總務局中通則ニ揭クル諸課ノ外分析課及博覽會課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム

第五條 分析課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 有用物料ノ分析及其適否實驗ニ關スル事項

二 分析試驗及其實驗報告文書編纂ノ事

第六條 博覽會課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 内外國博覽會ニ關スル事項

二 内外國共進會ニ關スル事項

第七條 農商務省參事官ハ四人ヲ以テ定員トス

第八條 農商務省中左ノ諸局ヲ置ク

農務局

商務局

工務局

水産局

山林局

地質局

鑛山局

專賣特許局

會計局

第九條 農務局ニ樹藝課蠶茶課畜産課獸醫課及編纂課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム

第十條 樹藝課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 穀菜菓樹烟草其他有用植物ニ關スル事項

二 棉麻其他纖維料植物ニ關スル事項

三 甘蔗黍粟蘆粟其他糖料植物ニ關スル事項

四 植物ノ病理除害ニ關スル事項

五 各種ノ肥料及内外農具ニ關スル事項

六 開墾ニ關スル事項

- 七 田圃ノ有害有益虫類及蜜蜂其他有用虫類ニ關スル事項
- 八 農學校ニ關スル事項
- 九 農業會社及組合ニ關スル事項
- 十 農事會ニ關スル事項
- 第十一條 蠶茶課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 養蠶桑樹ニ關スル事項
 - 二 製絲及蠶種ノ改良ニ關スル事項
 - 三 製茶及茶樹ノ栽培改良ニ關スル事項
 - 四 蠶病其他除害ニ關スル
- 第十二條 畜産課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 家畜家禽及其蕃息改良ニ關スル事項
 - 二 獵業ノ取締及野禽野獸ノ蕃息利害ニ關スル事項
 - 三 有害鳥獸威銃ニ關スル事項
- 第十三條 獸醫課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 家畜家禽ノ保健治疾ニ關スル事項
 - 二 獸醫ノ試験及免許ニ關スル事項
- 第十四條 編纂課ニ於テハ農政及農業上ノ要件採摘農書編纂ノ事ヲ掌ル
- 第十五條 商務局ニ商事課及權度課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム

- 第十六條 商事課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 中外通商ニ關スル事項
 - 二 會社組合ニ關スル事項
 - 三 米商會所及株式取引所ニ關スル事項
 - 四 商業會ニ關スル事項
 - 五 諸市場ニ關スル事項
 - 六 外國便船減價乘組ニ關スル事項
- 第十七條 權度課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 度量衡検査ニ關スル事項
 - 二 中外度量衡比較取調ニ關スル事項
 - 三 度量衡製作并ニ賣捌人ニ關スル事項
 - 四 度量衡原器并諸器械保管ノ事
- 第十八條 工務局ニ勸工課及試験課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム
- 第十九條 勸工課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 工業ノ改良ニ關スル事項
 - 二 工業ニ屬スル標本ノ蒐集整理及保管ノ事
 - 三 工業會社及組合ニ關スル事項
 - 四 工業會ニ關スル事項

第二十條 試驗課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 工業製造ノ方術及執業ノ方法ニ關スル事項

二 工業物ノ試驗製法及改良ニ關スル事項

第二十一條 水産局ニ漁務課製造課及試驗課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム

第二十二條 漁務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 漁撈採藻及水族ノ蕃殖ニ關スル事項

二 漁具漁船漁法ノ改良ニ關スル事項

三 水産會社及組合ニ關スル事項

四 水産會ニ關スル事項

第二十三條 製造課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 魚介苔藻ノ乾燥鹽藏等ニ係ル食品製造ニ關スル事項

二 魚油魚蠟海産肥料等製造ニ關スル事項

三 食鹽製造ノ保護改良ニ關スル事項

第二十四條 試驗課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 水産物ノ製造魚卵介苗ノ採收養殖等試驗ニ關スル事項

二 水産ニ屬スル標本ノ蒐集整理及保管ノ事

第二十五條 山林局ニ第一課第二課第三課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム

第二十六條 第一課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 森林ノ經濟ニ關スル事項

二 山林原野官民有區別ニ關スル事項

三 森林ノ制度ニ關スル事項

四 山林會ニ關スル事項

五 山林學校ニ關スル事項

第二十七條 第二課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 森林斫伐栽植ニ關スル事項

二 官林及官有原野ニ關スル事項

三 民有林ノ監督ニ關スル事項

第二十八條 第三課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 山林原野ノ統計ニ關スル事項

二 貯材ニ關スル事項

三 森林ノ收支ニ關スル計算ノ事

第二十九條 地質局ニ地質課土性課及地形課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム

第三十條 地質課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 地質ノ關係地層ノ構造鑛床ノ驗定ニ關スル事項

二 有用金石鑛類調査ニ關スル事項

三 地質圖及其說明書編纂ノ事

第三十一條 土性課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 農業上ノ土性及農産上ノ物料調査ニ關スル事項
- 二 主産植物土性トノ關係試驗ニ關スル事項
- 三 土性圖及其說明書編纂ノ事

第三十二條 地形課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 地形測量ノ事
- 二 實測地形圖編製ノ事

第三十三條 鑛山局ニ、鑛山課及試驗課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム

第三十四條 鑛山課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 試驗借區ニ關スル事項
- 二 鑛脈圖及借區圖ニ關スル事項
- 三 測計器及圖書保管ノ事
- 四 貯藏品ノ保管及釐稅ニ關スル計算ノ事項

第三十五條 試驗課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 採鑛鑛物標本ノ分析試驗ニ關スル事項
- 二 鑛物蒐集保存ニ關スル事項

第三十六條 專賣特許局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 專賣特許願ニ關スル事項

二 專賣特許簿ノ登錄及專賣特許證ニ關スル事項

三 專賣特許ニ係ル明細圖書ニ關スル事項

四 專賣特許發明一覽簿人名簿及報告書編纂ノ事

五 專賣特許判決錄編纂ノ事

六 廣告ニ關スル事項

第三十七條 專賣特許局中商標課ヲ置キ左ノ事務ヲ掌ラシム

一 商標願ニ關スル事項

二 商標簿ノ登錄及登錄證ニ關スル事項

三 登錄商標縱覽ニ關スル事項

四 登錄商標一覽簿人名簿及報告書編纂ノ事

五 商標判決錄編纂ノ事

六 廣告ニ關スル事項

第三十八條 會計局ハ通則ニ掲クルモノ、外本省所轄ニ屬スル諸學校及各事務所ノ豫算決算及所管ノ作業ニ關スル損益計算ノ事ヲ掌ル

○遞信省官制

明治二十年三月
勅令第四號

朕遞信省官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

遞信省官制

- 第一條 遞信大臣ハ驛遞電信燈臺浮標船舶及海員ニ關スル事務ヲ管理ス
- 第二條 遞信大臣官房ニ秘書官二人ヲ置ク
- 第三條 遞信省總務局ニ書記官五人ヲ置ク
- 第四條 遞信省總務局中通則ニ掲クル報告課ヲ置カス報告課ノ事務ハ記錄課ニ於テ之ヲ掌ラシム
- 第五條 遞信省總務局中通則ニ掲クルモノ、外審査課ヲ置キ郵便電信違犯審査ニ關スル事務ヲ掌ラシム
- 第六條 遞信省會計局中通則ニ掲クルモノ、外收支課及倉庫課ヲ置キ郵便電信收入其他雜收入ニ關スル事及電信貯藏物品ニ關スル事ヲ掌ラシム
- 第七條 遞信省參事官ハ二人ヲ以テ定員トス
- 第八條 遞信省ニ會計監督官三人ヲ置ク矣任トス會計局ニ屬シ局中各課ノ事務ヲ監督セシム
- 第九條 遞信省ニ司檢官十人及司檢官補若干員ヲ置ク
- 司檢官ハ委任トス管船局ニ屬シテ海員及水先人ノ試驗審問船舶檢査測量及新造工事ノ監督ヲ掌ラシム
- 司檢官補ハ判任トス司檢官ノ事務ヲ佐ク
- 第十條 遞信省中左ノ諸局ヲ置ク

內信局

- 外信局
- 工務局
- 爲替貯金局
- 燈臺局
- 管船局
- 第十一條 內信局ハ郵便電信業務經理ノ事ヲ掌リ局中ニ第一課第二課及第三課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム
- 第十二條 外信局ハ外國郵便電信及外國爲替ニ關スル事ヲ掌リ局中ニ第一課及第二課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム
- 第十三條 工務局ハ電信工業ノ事ヲ掌リ局中ニ第一課及第二課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム
- 第十四條 爲替貯金局ハ爲替貯金ノ事ヲ掌リ局中ニ第一課及第二課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム
- 第十五條 燈臺局ハ燈臺浮標其他航海ノ安寧ヲ保護スル諸標識ノ事ヲ掌リ局中ニ第一課及第二課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム
- 第十六條 管船局ハ商船海員水先人其他海運會社組合等ノ事ヲ掌リ局中ニ第一課第二課及第三課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム
- 第十七條 局中各課ノ分掌規程ヲ掲ケサルモノハ閣議ヲ經テ之ヲ定ム

内閣中記録會計官報局官ノ制

明治十八年十二月
内閣第七十六號達官院廳府廳

内閣中文書恩給ノ二局ヲ廢シ更ニ記録會計官報ノ三局ヲ置キ官制ヲ定ムルコト左ノ如シ

官制

- 第一條 各局ニ局長及次長各一人ヲ置ク矣任トス
- 第二條 各局ニ風若干員ヲ置ク判任トス
- 第三條 各局長ハ事ヲ内閣總理大臣ニ承ケ局務ヲ掌理シ所屬僚員ヲ統督シ其一部ノ責ニ任ス
- 第四條 各局次長ハ局長ヲ助ケテ局務ヲ整理ス
- 第五條 風ハ上官ノ指揮ヲ承ケ書記帳簿及計算ノ事ヲ掌ル
記録
- 第六條 記録局ハ内閣書記官及内閣各局文書ノ記録編纂及圖書ノ類別保存出入ヲ掌リ事務分掌ノ爲ニ左ノ諸課ヲ置ク
 - 一 記録課
 - 内閣書記官及内閣各局ノ文書ヲ記録編纂シ諸科隨時參觀ノ用ニ供シ其出入及保存ノ事ヲ掌ル
 - 二 圖書課
 - 内閣書記及内閣各局其他諸官廳所屬ノ圖書ヲ類別保存シ其目錄ヲ整理シ諸官衙ノ需メニ應シテ時々參觀ノ用ニ供シ其出入ヲ掌ル

會計局

- 第七條 會計局ハ恩給ノ事務及内閣書記官并内閣各局ノ川度會計ヲ掌リ事務分掌ノ爲ニ左ノ諸課ヲ置ク
 - 一 恩給課
 - 恩給ノ支給ヲ管掌シ陸海軍并文官一般ノ恩給ニ關スル事務ヲ掌ル
 - 二 會計課
 - 内閣書記官及各局ノ經費豫算及決算金錢出納及出納検査所屬地所ノ保管並所屬諸建物ノ建築修繕並取締ノ事ヲ掌ル

官報局

- 第八條 官報局ハ官報ヲ編輯印刷スルコトヲ掌リ事務分掌ノ爲ニ左ノ諸課ヲ置ク
 - 一 編輯課
 - 官報ニ登載スヘキ書類ノ編輯并印刷ノ監督ヲ掌ル
 - 二 翻譯課
 - 官報ニ登載スヘキ外國文ノ翻譯ヲ掌リ兼テ往復及配送ノ事ヲ掌ル

○法制局官制

明治十八年十二月
閣令第七十四號

法制局官制

- 第一條 法制局ニ左ノ職員ヲ置ク

長官	一人	勅任
參事官	二十八人	奏任
書記官	二人	奏任
屬		判任

第二條 法制局ハ内閣總理大臣ノ管轄ニ屬ス

第三條 法制局ニ左ノ諸部ヲ設ク

行政部

外交、内務、勸業、教育、軍制、財務、逓信ニ關スル法律命令ノ起草審査ヲ掌ル

法制部

民法、訴訟法、商法、刑法、治罪法及之ニ關スル命令ノ起草審査ヲ掌ル

司法部

恩赦、特典及諸裁判所ノ官制及行政裁判ヲ掌ル

第四條 長官ハ命ヲ内閣總理大臣ニ承ケ參事官ヲ統督ス

第五條 各部ニ參事官ノ中一人ヲ以テ部長ヲ置ク

第六條 部長ハ長官ノ指揮ヲ承ケ各部主任ノ事務ヲ掌理ス

第七條 參事官ハ各部ニ分屬シ法律命令ノ起草審査ヲ掌ル

第八條 部長及參事官ハ内閣總理大臣ノ命ニ依リ内閣委員トナリテ元老院ニ出頭シ

下附ノ議案ヲ辨明ス

第九條 書記官ハ長官ニ屬シ文書ヲ掌ル

○地方逓信官々制 明治十九年三月勅令第八號

朕地方逓信官官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

地方逓信官官制

第一條 地方郵便電信ノ事務ヲ管理スル爲ニ須要ノ地方ニ逓信管理局ヲ置キ逓信大臣

ノ管轄ニ屬セシム

第二條 各逓信管理局ニ職員ヲ置クコト左ノ如シ

逓信管理局長

逓信管理局次長

逓信監察官

逓信監察官補

第三條 逓信管理局長ハ奏任三等四等五等トス逓信大臣ノ指揮監督ヲ承ケ地方逓信ノ

事務ヲ管理ス

第四條 逓信管理局次長ハ奏任現任局長ノ次等以下トス逓信管理局長ノ事務ヲ佐ク若

シ局長ナキトキ又ハ局長事故アルキハ逓信大臣ノ命ニ依リ局長ノ事務ヲ掌理ス

第五條 逓信監察官ハ奏任四等以下トス局長ノ命ヲ承ケ逓信事務監察ノ事ヲ掌ル

第六條 逓信監察官補ハ判任トス逓信監察官ノ事務ヲ佐ク

第七條 地方郵便電信ノ事務ヲ掌理スル爲ニ郵便局及電信分局ヲ置キ逓信管理局ノ管理ニ屬セシム

郵便局ノ等級ヲ分チテ一等二等及三等トス又電信分局ノ等級ヲ分チテ一等二等及三等トス

第八條 郵便局及電信分局ニ職員ヲ置クコト左ノ如シ

郵便局長

郵便書記

電信分局長

電信書記

第九條 一等郵便局ノ局長ハ委任四等以下トス二等郵便局及三等郵便局ノ局長ハ判任トス逓信管理局長ノ指揮命令ヲ承ケ成規ニ從ヒ其局務ヲ掌理ス

第十條 郵便書記ハ判任トス郵便事務ニ從事シ郵便局長事故アルトキハ其事務ヲ代理ス郵便書記ハ便宜雇員ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第十一條 一等電信分局ノ局長ハ委任四等以下トス二等電信分局及三等電信分局ノ局長ハ判任トス逓信管理局長ノ指揮命令ヲ承ケ成規ニ從ヒ其局務ヲ掌理ス

第十二條 電信書記ハ判任トス電信事務ニ從事シ電信分局長事故アルトキハ其事務ヲ代理ス電信書記ハ便宜雇員ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

○税關官制

明治十九年三月
勅令第七號

朕税關官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

税關官制

第一條 各税關ハ大藏大臣ノ管轄ニ屬シ職員ヲ置クコト左ノ如シ

税關長

税關副長

監定官(明治二十年十二月勅令第六十九號ヲ以テ追加ス)

屬

監吏

鑒定吏

第二條 税關長ハ委任トス大藏大臣ノ指揮監督ヲ承ケ海關稅及諸收入ノ事ヲ掌理ス税關長ハ其主務ニ就キ關稅局長ト協辦スルコトアルヘシ

第三條 税關副長ハ委任トス横濱神戸ノ兩税關ニ限り之ヲ置ク

税關副長ハ税關長ノ事務ヲ佐ク税關長事故アルトキハ其事務ヲ代理ス

鑒定官ハ委任二等以下トス税關長ノ指揮監督ヲ承ケ貨物鑒定ノ事ヲ掌ル(明治二十年十二月勅令第六十九號ヲ以テ追加ス)

第四條 屬ハ判任トス各上官ノ指揮ヲ承ケ書記計算簿記ノ事ニ從フ

第五條 監吏ハ判任トス各上官ノ指揮ヲ承ケ密商脫稅監視ノ事ニ從フ
鑒定吏ハ便宜雇員ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第六條 鑒定吏ハ判任トス各上官ノ指揮ヲ承ケ貨物鑒定ノ事ニ從フ

鑒定吏ハ便宜雇員ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第七條 各税關ニ檢査課鑒定課收稅課倉庫課監視課文書課製表課及會計課ヲ置キ其事
務ヲ分掌セシム

第八條 檢査課ハ輸出入貨物ノ檢査ニ關スル一切ノ事ヲ掌ル

第九條 鑒定課ハ輸出入貨物ノ性質價直其他鑒定ニ關ル一切ノ事ヲ掌ル

第十條 收稅課ハ輸出入貨物ノ税金及船舶倉庫等ノ諸收入金收納ニ關スル一切ノ事ヲ
掌ル

第十一條 倉庫課ハ倉庫上屋ヲ管守シ其開閉及貨物ノ出納ニ關スル一切ノ事ヲ掌ル

第十二條 監視課ハ密商稅監視ノ事ヲ掌ル

第十三條 文書課ハ内外諸文書及職員ノ取扱免狀證書等捺印ノ事ヲ掌ル

第十四條 製表課ハ貿易ニ關スル諸表編製ノ事ヲ掌ル

第十五條 會計課ハ關稅諸收入及經費ノ豫算決算並經費ノ出納買上品官沒品ノ取扱財
産ノ管守其他諸備入ノ身分ニ關スル事ヲ掌ル

○樞密院官制

明治二十一年四月
勅令第二十二號

朕元勳及練達ノ人ヲ撰ミ國務ヲ諮詢シ其啓沃ノ力ニ倚ルノ必要ヲ察シ樞密院ヲ設ケ朕
カ至高顧問ノ府トナサントス茲ニ其官制及事務規程ヲ裁可シ之ヲ公布セシム

御名 御璽

樞密院官制

第一章 組織

第一條 樞密院ハ天皇親臨シテ重要ノ國務ヲ諮詢スル所トス

第二條 樞密院ハ第一議長一人第二副議長一人第三顧問官十二人以上第四書記官長一
人及書記官數人ヲ以テ組織ス

第三條 樞密院ノ議長副議長顧問官ハ親任書記官長ハ勅任書記官ハ奏任トス

第四條 何人タリトモ年齢四十歳ニ達シタルモノニ非サレハ議長副議長及顧問官ニ任
スルコトヲ得ス

第五條 議長ハ書記官ノ内ヲ以テ秘書官ヲ兼子シムルコトヲ得

第二章 職掌

第六條 樞密院ハ左ノ事項ニ付會議ヲ開キ意見ヲ上奏シ勅裁ヲ請フヘシ

一 憲法及憲法ニ附属スル法律ノ解釋ニ關シ及豫算其他會計上ノ疑義ニ關スル爭議

二 憲法ノ改正又ハ憲法ニ附属スル法律ノ改正ニ關スル草案

三 重要ナル勅令

四 新法ノ草案又ハ現行法律ノ廢止改正ニ關スル草案列國交渉ノ條約及行政組織ノ
計畫

五 前諸項ニ掲グルモノ、外行政又ハ會計上重要ノ事項ニ付特ニ勅命ヲ以テ諮詢セ
ラレタルトキ又ハ法律命令ニ依テ特ニ樞密院ノ諮詢ヲ經ルヲ要スルトキ

第七條 前條第三項ニ掲ケタル勅令ニハ樞密院ノ諮詢ヲ經タル旨ヲ記載スヘシ
第八條 樞密院ハ行政及立法ノ事ニ關シ天皇ノ至高ノ顧問タリト雖モ施政ニ干與スルコトナシ

第三章 會議及事務

第九條 樞密院ノ會議ハ顧問官十名以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス
第十條 樞密院ノ會議ハ議長之ニ首席シ議長事故アルトキハ副議長之ニ首席ス議長副議長共ニ事故アルトキハ顧問官其席次ニ依リ首席スヘシ
第十一條 各大臣ハ其職權上ヨリ樞密院ニ於テ顧問官タルノ地位ヲ有シ議席ニ列シ表決ノ權ヲ有ス又各大臣ハ委員ヲ差シテ會議ニ出席シ演述及説明ヲ爲サシムルコトヲ得但表決ノ數ニ加ラス

第十二條 樞密院ノ議事ハ多數ニ依リ之ヲ決ス但可否平等ノ場合ニ於テハ會議首席ノ決スル所ニ依ル

第十三條 議長ハ樞密院ニ屬スル一切ノ事務ヲ總管シ樞密院ヨリ發スル一切ノ公文ニ署名ス副議長ハ議長ノ職務ヲ輔佐ス

第十四條 書記官長ハ議長ノ監督ヲ受ケ樞密院ノ常務ヲ管理シ一切ノ公文ニ副署シ會議ニ付スヘキ事項ヲ審査シテ報告書ヲ調製シ會議ニ列シ辨明ノ任ニ當ル但表決ノ數ニ加ラス
書記官ハ會議ニ於テ議事ヲ筆記シ及書記官長ノ職務ヲ輔佐シ書記官長事故アルトキ

ハ書記官之ヲ代理ス

前項ノ筆記ハ出席員ノ姓名會議ノ事件質問答辨及議決ノ要旨ヲ記載スルモノトス
第十五條 特別ノ場合ヲ除クノ外豫メ審査報告書ヲ調製シ其會議ニ必要ナル書類ト共ニ之ヲ各員ニ配達シタル後ニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス
議事日程及報告ハ豫メ各大臣ニ通報スヘシ

樞密院事務規程

第一條 樞密院ハ勅命ニ由リ會議ニ下付セラレタル事項ニ付意見ヲ述フ

第二條 樞密院ハ帝國議會若クハ其一院又ハ官署又ハ臣民ヨリ請願上其他通信ヲ受領スルコトヲ得ス

第三條 樞密院ハ内閣及各省大臣トノミ公務上ノ交渉ヲ有シ其他ノ官署帝國議會又ハ臣民トノ間ニ文書ヲ往復シ又ハ其他ノ交渉ヲ有スルコトヲ得ス

第四條 議長ハ樞密院ニ到達スルノ事項ハ書記官長ニ下付シテ之ヲ審査セシメ及會議ニ付スヘキ事項ノ報告ヲ調製セシム議長ハ必要ナリト認ムル場合ニ於テ親ラ報告ノ任ニ當リ又ハ顧問官一人若クハ數人ニ之ヲ任スルコトヲ得ヘシ

第五條 審査報告書ハ報告員ヨリ之ヲ議長ニ提出スヘシ

臨時緊急ノ場合ニ於テハ口頭ヲ以テ報告ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ其要領ヲ簡短ニ第八條ニ載スル件名簿ニ記入スヘシ
第六條 議長ハ審査報告書ヲ整頓スヘキ期日ヲ限定スルコトヲ得報告ハ成ルヘク速ニ

之ヲ調製シテ遷延スルコトヲ許サス

内閣ハ至急ヲ要スル事件ニ付其由ヲ通知シ及其會議ノ期日ヲ限定スルコトヲ得

第七條 審査報告書ハ附属文書ト共ニ其會議ヲ開クノ日ヨリ少クモ三日以前ニ之ヲ各員ニ配達スヘシ

第八條 件名簿ハ會議ノ期日ノ順序ニ從ヒ之ヲ記入スヘシ件名簿ニ登載スヘキ事項ハ第一事件ノ性質第二會議ノ前文書配達ノ日時第三其會議ノ期日等トス

會議ニ付スヘキ各件ニ就テハ前項ニ同シキ議事日程ヲ調製シ其會議ヲ開クノ日ヨリ三日以前ニ各員ニ通報スヘシ此通報ハ會議ノ招狀ヲ兼ヌルモノトス

第九條 樞密院ノ會議ノ日時ハ議長之ヲ定ム但各大臣ハ其日時ノ變更ヲ求ムルコトヲ得

第十條 樞密院ノ會議ハ左ノ規程ニ循由シ議長若クハ副議長之ヲ整理スヘシ書記官長又ハ書記官ハ其事件ノ性質ヲ簡明ニ演述シ議決ヲ取ルヘキ要點ヲ辨明ス次

テ各員ヲシテ自由ニ討論セシム何人タリトモ議長ノ許可ヲ受クルニ非ザレハ發言スルコトヲ得ス討論既ニ盡ルノ後ハ議長ヨリ問題ヲ定メ左ノ順序ニ從ヒ表決ヲ爲サシム

第一出席ノ各大臣第二席順ニ從ヒ列スル所ノ顧問官トス議長ノ討論ニ參與スルハ其自由ニ屬スルモノトス

議決ノ結果ハ議長之ヲ言明スヘシ

第十一條 議事日程ニ掲載シタル事件ノ會議其當日ニ結了セサルトキハ之ヲ他日ニ延

會スルコトヲ得此場合ニ於テハ更ニ常例ノ定式ヲ踐行スルコトヲ要セス

第十二條 樞密院ノ會議ノ意見ハ書記官長又ハ書記官表決ノ結果ニ依リ之ヲ起草シ議長ノ檢閲ヲ請フヘシ此意見ニハ理由ヲ附シ重要ノ事件ニ就テハ討論ノ要領書ヲ附屬スヘシ

反對ノ議論ヲ主持シタル出席員ハ其表決ト其理由トヲ議事筆記理由書又ハ要領書ニ記入セラレンコトヲ求ムルコトヲ得

第十三條 前條ノ意見ハ議長ヨリ天皇ニ上奏シ同時ニ内閣總理大臣ニ通報スヘシ

第十四條 樞密院ノ會議ノ議事筆記ハ議長及書記官又ハ出席書記官之ニ署名シ其正確ヲ表明スヘシ

○會計検査院官制

明治十九年四月 勅令第二十號

會計検査院官制

第一條 會計検査院ハ政府ノ會計スル爲メ左ノ職員ヲ置ク

院長

副院長

書記官

検査官

検査官補

屬

第二條 院長ハ一人勅任一等トス内閣總理大臣ノ指揮監督ヲ承ケ國庫及各廳金錢物品ノ會計官有財産ノ増減作業資本別種金保管金抵當物品ノ會計ヲ審査判定シ歳出入ノ決算報告書ニ對シ其當否ヲ證明スルコトヲ掌ル

審査判定及證明ノ手續ニ關スル検査ノ規程ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第三條 院長ハ院中ノ官吏ヲ統督シ奏任官ノ進退ハ内閣總理大臣ニ具狀シ判任官以下ハ之ヲ專行ス

第四條 院長ハ各官廳中一部ニ屬スル會計ノ検査ヲ其廳ニ委任シテ之ヲ報告セシムルコトヲ得

第五條 院長ハ検査上必要ト認ムル簿冊書類等ヲ點檢シ及主任官吏ノ辨明ヲ求ムルコトヲ得

第六條 院長ハ金庫倉庫及出納ノ實況其他事業ノ審査ヲ要スルトキハ豫メ其旨ヲ通知シ検査官ヲ其廳ニ派遣シ主務官吏ノ立會ヲ求ムルコトヲ得

第七條 院長ハ會計正當ナリト判定シタルトキハ主任官吏ニ對シ認可狀ヲ下付ス其正當ナラサルモノハ該所屬長官ニ通知シ之カ處分ヲ爲サシメ又ハ時宜ニ依リ直ニ内閣總理大臣ニ具狀シ處分ヲ請フコトヲ得

第八條 院長ハ毎會計年度ノ終リタル後五ヶ月以内ニ報告書ヲ調整シテ前年度ノ會計ニ就キ検査ノ功程ヲ内閣總理大臣ニ上申スヘシ及需費ノ成績ニ就キ行政上ノ意見ヲ開申スルコトヲ得

第九條 副院長ハ一人勅任二等トス院長ノ職務ヲ佐ケ又ハ院長事故アルトキハ其職務ヲ代理ス

第十條 書記官ハ奏任トシ二人ヲ以テ定員トス院長ノ命ヲ承ケ文書會計ノ事ヲ掌ル

第十一條 検査官ハ奏任トシ十人ヲ以テ定員トス院長ノ命ヲ承ケ會計検査ノ事務ヲ分掌ス

第十二條 検査官補ハ判任トス検査官ニ分屬シテ會計検査ノ事務ニ從事ス

第十三條 屬ハ判任トス書記官ニ屬シテ書記會計ノ事務ニ從事ス

○造幣局官制

明治二十年十二月
勅令第六十號

朕造幣局官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

造幣局官制

第一條 造幣局ハ大藏大臣ノ管理ニ屬シ貨幣鑄造及賞牌製造ノ事ヲ掌ル

第二條 造幣局ニ職員ヲ置クコト左ノ如シ

局長

局次長

技術官

屬

第三條 局長ハ一人奏任一等二等トス大藏大臣ノ指揮監督ヲ承ケ局中全部ノ事ヲ掌理

- ス
- 第四條 局長一人奏任トシ現任局長ノ次等以下トス局長ノ事務ヲ佐ク
- 第五條 技術官ハ局長ノ指揮監督ヲ承ケ工事ヲ分掌ス
- 第六條 屬ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ書記計算簿記ニ從事ス
- 第七條 造幣局ニ總務部會計部鑄造部試金所精製所ヲ置ク
- 第八條 總務部ハ内外ノ諸公文書類諸報告ノ取扱監察ノ事務職員ノ取扱及諸雜件調理ノ事ヲ掌ル
- 第九條 會計部ハ各地金及成貨ノ出納計算營業費ノ豫算決算及其出納各工場諸官舎等所屬建物ノ營繕ニ關スル事務ヲ掌ル
- 第十條 鑄造部ハ貨幣ノ鑄造極印ノ彫刻鐵工銅工等ノ工事ヲ掌ル
- 第十一條 試金所ハ地金及貨幣ノ品位ヲ試驗スルノ工事ヲ掌ル
- 第十二條 精製所ハ金銀ヲ精製スルノ工事ヲ掌ル
- 第十三條 大藏省構内ニ造幣局東京出張所ヲ置キ各地金ノ受入及代リ貨幣拂渡ノ手續ヲ分掌セシム

○交際官及領事官制 明治十九年三月 勅令第五號

- 第一條 交際官ノ制ヲ定ムルコト左ノ如シ
- 特命全權公使 勅任一等

- 辨理公使 勅任二等
- 代理公使 奏任一等
- 公使館參事官 奏任一等
- 公使館書記官 奏任二等三等四等五等（明治二十年七月勅令第三十一號ヲ以テ附圖ノ二字ヲ追加ス）
- 交際官試補 奏任五等六等
- 第二條 各公使館ニ書記生ヲ置ク判任トス專ラ公使館會計ノ事務ニ從事セシム
- 第三條 交際官ノ未タ任所ヲ命セラレサルモノハ無任所外交官トシテ外務省ニ出仕シ外務大臣ノ指命スル所ニ就キ省務ニ從事ス
- 無任所外交官ハ公使五人參事官書記官交際官試補十六人ヲ超過スルコトヲ得ス
- 第四條 領事ノ制ヲ定ムルコト左ノ如シ
- 總領事 奏任一等
- 領事 奏任二等三等四等
- 副領事 奏任五等六等
- 領事館書記生 判任
- 第五條 領事ヲ置カサルノ地ニ於テハ便宜貿易事務官ヲ置クコトヲ得
- 貿易事務官ハ奏任三等以下トス

○元老院官制 明治十九年三月 勅令第十一號

朕元老院官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

元老院官制

議長

一人

議場ニ臨ミ議事ヲ整頓シ本院ノ章程ヲ遵守シ並ニ條例規則ヲ執行シ諸般ノ事務ヲ總列シ奏任官ノ進退ハ内閣總理大臣ヲ經テ之ヲ上奏シ列任官以下ハ之ヲ專行ス

副議長

一人

議長缺員又ハ事故アリテ缺席スルトキハ之ヲ代理ス

議員

本院ノ章程ニ從ヒ諸議案ヲ議スルヲ掌ル

書記官

六人

議長ノ命ヲ受ケ各其主務ヲ幹理ス

書記生

上官ノ指揮ヲ受ケ各庶務ニ從事ス

○元老院議長等ノ官等年俸

明治十九年三月
勅令第十二號

朕元老院議長副議長議員書記官ノ官等年俸ノ改正ヲ裁可ス

御名 御璽

元老院議長副議長議員書記官等年俸

議長

勅任

五千圓

副議長

勅任一等

四千圓

議員

勅任一等

三千五百圓

議員

勅任二等

三千圓

書記官

奏任一等

上貳千四百圓
下貳千二百圓

書記官

奏任二等

上貳千圓
下千八百圓

書記官

奏任三等

上千六百圓
下千四百圓

書記官

奏任四等

上千貳百圓
下千圓

○内閣總理大臣等ヲ置ク

明治十八年十二月
第六十九號官省院廳府縣

今般太政大臣左右大臣參議各省卿ノ職制ヲ廢シ更ニ内閣總理大臣及宮内外務内務大臣

陸軍海軍司法文部農商務遞信ノ諸大臣ヲ置ク

内閣總理大臣及外務内務大藏陸軍海軍司法文部農商務遞信ノ諸大臣ヲ以テ内閣ヲ組織ス

今般内閣書記官制ヲ改ムルヲ左ノ如シ

内閣書記官四人 奏任

屬 判任

第一條 内閣書記官ハ内閣總理大臣ノ命ヲ受ケ文書ノ起草査閲淨寫校訂及書類ノ授受

ヲ取扱ヒ並ニ奏任以上ノ奏薦叙任其他身分ニ關スル文書ヲ掌ル

第二條 屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ書記帳簿及計算ノ事ヲ掌ル

○樞密院議長及顧問官年俸 明治二十一年四月 勅令第二十三號

朕茲ニ樞密議長及顧問官ノ年俸ヲ裁可ス

御名 御 璽

樞密院議長及顧問官年俸 六千圓

樞密院副議長 五千圓

樞密院顧問官 四千五百圓

第二百九十八章

地方官々制

明治十九年七月十二日 勅令第五十四號

朕地方官官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御 璽

明治十九年七月十二日

内閣總理大臣伯爵伊藤博文 内務大臣伯爵山縣有朋

勅令第五十四號

地方官々制

府 縣

第一條 各府縣ニ職員ヲ置ク左ノ如シ

知事 書記官 收稅長 屬

典獄 副典獄 書記 看守長 收稅屬 看守副長

第二條 知事ハ一人勅任二等又ハ奏任一等トス内務大臣ノ指揮監督ニ屬シ各省ノ主務

ニ就テハ各省大臣ノ指揮監督ヲ承ケ法律命令ヲ執行シ部内ノ行政及警察事務ヲ總理

ス但東京府知事ハ勅任一等ニ陞ルコトヲ得

第三條 知事ハ部内ノ行政及警察事務ニ付其職權若クハ特別ノ委任ニ依リ法律命令ノ

範圍内ニ於テ管内一般又ハ其一部ニ府縣令ヲ發スルコトヲ得

第四條 府縣令ハ官報其他特ニ定ムル方法ニ依リ一般ニ公布シタル後其効力アルモノ

トス 第五條 府縣令ハ内務大臣其他主務ノ大臣ニ於テ公益ヲ害シ成規ニ違ヒ又ハ權限ヲ犯

スモノアリト認ムルトキハ之ヲ取消シ又ハ中止セラル、コトアルヘシ
第六條 知事ハ所部ノ官吏ヲ統督シ奏任官ノ功過ハ内務大臣及主務大臣ニ具狀シ判任官以下ノ進退ハ之ヲ專行ス

第七條 知事ハ法律命令ノ定ムル所ニ從ヒ所部ノ官吏ヲ懲戒ス其奏任官ニ係ルモノハ之ヲ内務大臣ニ具狀シ判任官以下ハ之ヲ專行ス

第八條 知事ハ非常急變ノ場合ニ臨ミ兵力ヲ要シ又ハ警護ノ爲メ兵備ヲ要スルトキハ鎮臺若クハ分營ノ司令官ニ移牒シテ出兵ヲ請フコトヲ得

第九條 知事ハ各郡區内警察分署ノ配置分合ヲ定ム

第十條 知事ハ廳中處務ノ細則ヲ設クルコトヲ得

第十一條 知事ハ其須要ニ從ヒ俸給豫算定額内ニ於テ雇員ヲ使用スルコトヲ得

第十二條 知事ハ一週年末ニ其廳ノ豫算定額内ニ於テ奏任官以下特別ノ勤勞アル者ヲ賞與スルコトヲ得其奏任官ニ係ルモノハ之ヲ内務大臣ニ具狀シ判任官以下ハ之ヲ專行ス

第十三條 知事ハ其須要ニ從ヒ俸給豫算定額内ニ於テ内務大臣ノ認可ヲ經技術官々等俸給令ニ依リ技術官ヲ置クコトヲ得但地方稅ヲ以テ支辨スヘキ事業ノ經費内ニ於テスルモノハ内務大臣ノ認可ヲ經雇員トシテ之ヲ使用スルコトヲ得

第十四條 書記官ハ二人奏任二等以下トス知事ノ命ヲ承ケ部長トナリテ其所部ノ事務

ヲ整理ス知事事故アルトキハ上席書記官其職務ヲ代理ス

第十五條 收稅長ハ一人奏任四等以下トス知事ノ命ヲ承ケ租稅ノ賦課徵收及徵稅費ニ關スル事務ヲ掌ル

第十六條 属ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ書記計算ノ庶務ニ從事ス

第十七條 收稅属ハ判任トス收稅部ニ属シ收稅長ノ指揮ヲ承ケ其主務ニ從事ス

第十八條 典獄ハ判任一等又ハ二等トス知事又ハ部長ノ命ヲ承ケ監獄ニ關スル一切ノ事務ヲ掌理シ書記看守長以下ヲ指揮ス

第十九條 副典獄ハ判任三等乃至五等トス典獄ノ事務ヲ佐ケ典獄事故アルトキハ其職務ヲ代理ス

第二十條 書記ハ判任六等以下トス典獄ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第二十一條 看守長ハ判任五等乃至七等トス典獄ノ命ヲ承ケ監獄ノ看守ヲ掌リ兼テ看守ノ勤惰ヲ觀察ス

第二十二條 看守副長ハ判任八等以下トス看守長ノ職掌ヲ佐ケ

第二十三條 看守ニ關スル規程ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第二十四條 府縣廳ノ事務ヲ分掌セシムル爲メ第一部第二部ヲ置キ部中便宜課ヲ設ケ書記官ヲシテ各一部ノ長タラシム

第一部

一、府縣會水利土功會區町村會ノ會議ニ關スル事項

- 二、地方税區町村費備荒儲蓄ニ關スル事項
- 三、外國人ニ關スル事項
- 四、文書往復ニ關スル事項及官印府縣印ヲ管守スル事
- 五、農工商務ニ關スル事項
- 六、他部ノ主關ニ屬セサル事項

第二部

- 一、土木ニ關スル事項
 - 二、兵事ニ關スル事項
 - 三、學務ニ關スル事項
 - 四、監獄ニ關スル事項
 - 五、衛生ニ關スル事項
 - 六、會計及公債證書ニ關スル事項
- 第二十五條 前條ノ外府縣廳中ニ收稅部ヲ置キ租稅ノ賦課徵收及徵稅費ニ關スル一切ノ事務ヲ分掌セシム部中課ヲ設ケルハ第二十四條ノ例ニ依ル
- 第二十六條 前條ニ指定スル外臨時ノ事務ハ知事ニ於テ便宜其主掌ヲ定ムルコトヲ得
(自第二十七條ハ警察官職制ニシテ上編第六類ニ掲出ス依テ略之)
(至第三十六條)
- 第三十七條 每郡若クハ數郡ニ郡長一人區毎ニ區長一人及書記若干人ヲ置ク
- 第三十八條 郡區長ハ委任四等以下書記ハ判任三等以下トス
- 第三十九條 郡區長ハ知事ノ指揮監督ヲ承ケ法律命令ヲ部内ニ執行シ部内ノ行政事務ヲ整理ス

第四十條 郡區長ハ法律命令ヲ以テ委任シ及知事ヨリ特ニ分任スル條件ハ便宜施行シテ後知事ニ報告スルヲ得

第四十一條 郡長ハ行政事務ニ就テ其部内町村ノ戶長ヲ指揮シ其共同事務ニ就テハ之ヲ監督ス

第四十二條 郡區長ハ郡區書記ノ任免ヲ知事ニ具申ス

第四十三條 郡區長ハ法律命令若クハ知事ヨリ委任セラレタル事件ニ付部内一般ニ告示スルコトヲ得

第四十四條 郡區長ハ部内ノ行政處分ニ關シ警察官ニ請求シテ之ヲ執行セシムルコトヲ得

第四十五條 郡區書記ハ郡區長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ分掌ス

島地

第四十六條 長崎縣鹿兒嶋縣其他今後指定セラレヘキ府縣ニ特ニ島司ヲ置キ内部行政事務ヲ掌理シ知事ノ委任スル條項ハ便宜之ヲ施行スルコトヲ得

第四十七條 島司ハ委任三等以下トス

○地方官々等俸給令並改正俸給表 明治十九年七月十二日 勅令第五十五號

地方官等俸給令
第一條 知事ノ年俸ヲ定ムル左ノ如シ

勅任二等 上四千五百圓
下四千圓

委任一等 上三千五百圓
下三千圓

第二條 知事ハ五年ヲ踰ユルニアラサレハ其年俸ヲ増給セズ

第三條 東京府知事ノ勅任一等ニ陞リタル場合及知事ノ叙任特例ハ勅令第六號高等官
々等俸給令ニ依ル

第四條 書記官警部長收稅長郡區長ノ叙任同等内ノ順序定員年俸及陞叙特例ハ前條ニ
同シ

第五條 属典獄副典獄郡區書記監獄書記ノ俸給昇等每等ノ定員及在官死亡者ノ賜金ハ
勅令第三十六號判任官々等俸給令ニ依ル

第六條 警部警部補看守長看守副長及收稅屬ノ俸給ハ別表定ムル所ニ依リ事務ノ繁簡
ニ從ヒ府縣知事便宜之ヲ増減スルコトヲ得但一等上級俸ヲ受ケタル者特別増俸ノ場
合ハ判任官々等俸給令ニ依ル

昇等每等ノ官員及在官死亡者ノ賜金ハ前條ニ同シ

二十一年十
月勅令第六
十八號ヲ以
テ第六條及
別表改正

別表

官	判 任 官									
	等一	等二	等三	等四	等五	等六	等七	等八	等九	等十
警 部	上七十五圓	中六十圓	下五十圓	上七十五圓	中六十圓	下五十圓	上七十五圓	中六十圓	下五十圓	上七十五圓
看 守 長	上七十五圓	中六十圓	下五十圓	上七十五圓	中六十圓	下五十圓	上七十五圓	中六十圓	下五十圓	上七十五圓
警 部 補	上七十五圓	中六十圓	下五十圓	上七十五圓	中六十圓	下五十圓	上七十五圓	中六十圓	下五十圓	上七十五圓
看 守 副 長	上七十五圓	中六十圓	下五十圓	上七十五圓	中六十圓	下五十圓	上七十五圓	中六十圓	下五十圓	上七十五圓
收 稅 屬	上七十五圓	中六十圓	下五十圓	上七十五圓	中六十圓	下五十圓	上七十五圓	中六十圓	下五十圓	上七十五圓

第二百九十九章

北海道廳官制

明治十九年一月
勅令第六號

北海道廳官制

第一條 北海道廳ニ左ノ職員ヲ置ク

第二十一類 雜

長官

理事官

属

第二條 北海道廳ニ左ノ警察官ヲ置ク

警部長

警部

警部補

第三條 北海道廳ニ左ノ郡區官ヲ置ク

郡區長

郡區書記

第四條 北海道廳ニ左ノ監獄官ヲ置ク

典獄

副典獄

書記

看守長

第五條 北海道廳ニ左ノ技術官ヲ置ク

技長

技手

第六條 北海道廳ニ左ノ學務官ヲ置ク

農學校長

農學校幹事

農學校教授

農學校助教

第七條 長官ハ勅任トス北海道拓地殖民ニ關スル一切ノ事務ヲ總判シ廳中委任官ノ進退ハ内閣ニ具狀シ判任以下ハ之ヲ專行ス

第八條 長官ハ一般ノ法律命令北海道ニ施行シ難キモノアリト思置スルトキハ其意見ヲ具ヘ内閣ニ上申スルコトヲ得又北海道ニ須要ナリト認ムル所ノ法律命令ノ案ヲ具ヘ内閣ニ上申スルコトヲ得

第九條 長官ハ各省主任ノ事務ニ就テハ各省大臣ノ指揮ヲ受クヘシ

第十條 長官ハ屯田兵開墾授産ノ事務ヲ監督ス

第十一條 長官ハ毎年度末ニ於テ其處務ノ方法及功程ヲ具ヘ内閣ヘ報告スヘシ

第十二條 理事官ハ委任トス事ヲ長官ニ受ケ各其主務ヲ幹理ス

第十三條 属ハ判任トス上官ノ指揮ヲ受ケ各庶務ニ從事ス但支廳ニ於テハ各課長ニ充ツルコトヲ得

第十四條 警部長及警部ハ事ヲ長官又ハ支廳長ニ受ケ其職制ハ明治十一年第三十二號
太政官達府縣官職制ニ依ル

第十五條 郡區長ハ事ヲ長官又ハ支廳長ニ受ケ部内ノ事務ヲ掌リ併セテ町村戸長ヲ監
督ス

第十六條 郡區書記ハ郡區長ノ命ヲ受ケ各庶務ニ從事ス

第十七條 典獄以下職制ハ明治十四年第十九號太政官達內務省所轄集治監職制ニ依ル
但典獄ハ事ヲ長官ニ受ケ

第十八條 技長ハ事ヲ長官ニ受ケ技術ノ事ヲ幹理ス

第十九條 農學校長ハ事ヲ長官ニ受ケ學校ノ事務ヲ掌リ及職員ヲ管理ス

第二十條 農學校幹事ハ校長ノ命ヲ受ケ學校ノ庶務ヲ管理ス校長事故アルトキハ其事
務ヲ代理スルコトヲ得

第二十一條 農學校教授ハ生徒ノ教授ヲ掌ル

第二十二條 農學校助教ハ教授ノ職掌ヲ助ケ

第二百零九章 高等官々等俸給令

明治十九年三月
勅令第六號

朕茲ニ高等官々等俸給令ヲ裁可ス

御名 御璽

高等官々等俸給令

官等及叙任

第一條 高等官ヲ分テ勅任官奏任官トス

第二條 勅任官中親任式ヲ以テ叙任スル官ノ辭令書ハ親署ノ後御璽ヲ鈐シ内閣總理大
臣又ハ首坐ノ大臣之ニ副署ス

第三條 親任式ヲ以テ叙任スル官ヲ除クノ外勅任官ヲ分テ二等トス其辭令書ハ御璽ヲ
鈐シ内閣總理大臣之ヲ奉行ス

第四條 奏任官ヲ分テ六等トス其任官ハ内閣總理大臣之ヲ奏薦シ其各省ニ風スルモノ
ハ内閣總理大臣ヲ經由シテ主任大臣之ヲ奏薦ス

第五條 奏任官ノ辭令書ハ内閣ノ印ヲ鈐シ内閣總理大臣之ヲ宣行ス

第六條 各官同等内ノ順序ハ任官ノ前後ニ依ル

第七條 勅任官又ハ奏任官ノ官等内ニ於テ特ニ官等ヲ限ルコトヲ要スルモノハ各別ニ
之ヲ定ム

第八條 内閣及各省中ノ局長ハ奏任官一等又ハ二等トシ局長ハ現任局長ノ次等以下
トス

第九條 同一ノ官名ニシテ等差アルモノハ每等人員ヲ定メ内閣總理大臣ノ認可ヲ受ケ
ヘシ其每等ノ定員變更ヲ要スルトキモ亦同シ

俸給

第十條 勅任委任文官ノ年俸ハ別表ニ依ル

第十一條 陸海軍武官ノ年俸ハ從前定ムル所ニ依ル

第十二條 議官交際官領事貿易事務官判事檢事理事地方官教官技術官ノ類其特ニ定ムル俸給ハ前條ノ外トス

第十三條 委任官ノ年俸ハ各階俸給定額内及其官等年俸ノ等級ニ依リ事務ノ繁簡ニ從ヒ各大臣便宜之ヲ増減スルコトヲ得

陞叙及特例

第十四條 官等ハ五年ヲ踰ユルニアラサレハ陞叙スルコトヲ得ス

第十五條 每等人員ヲ定ムルノ官ハ五年ヲ踰ユルモ闕員アルニアラサレハ陞叙スルコトヲ得ス

第十六條 局長ノ闕員ニ依リ局長ヲ以テ其闕ヲ補フコトヲ要スルトキハ第十四條ノ例ニ依ラス

第十七條 各大臣秘書官ノ進退ハ第十四條第十五條ノ例外トス

第十八條 勅任官ハ本令ノ外勅旨ヲ以テ特ニ其年俸ヲ増給スルコトアルヘシ

第十九條 委任官一等ニシテ上級俸ヲ受ケタル者勞績被稱顯ナルハ内閣ノ上奏ニ依

リ特旨ヲ以テ勅任官二等ノ下級俸ヲ給スルコトアルヘシ

第二十條 委任官他ノ官廳ニ涉ルノ兼官ハ兼ヌル所ノ俸給三分ノ一以内ヲ増給スルコトヲ得

同官廳ニ於ケル兼官ハ俸給ノ多額ニ就キ之ヲ給ス

第二十一條 官ニ在リテ死亡シタル者ハ年俸三分ノ一ヲ其遺族ニ給ス其非職者ニ於テモ亦同シ

別表

第二十二條 本令中俸給ニ關スル細則ハ大藏大臣其省令ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

勅任官		委任官					
内閣總理大臣	一等	一等	二等	三等	四等	五等	六等
九千六百圓	五千圓	三千圓	二千四百圓	千八百圓	千二百圓	千九百圓	千六百圓
各省大臣	上	中	下	上	中	下	
六千圓	四千五百圓	三千五百圓	二千五百圓	二千八百圓	二千四百圓	二千圓	

高等官俸給支給細則

高等官俸給支給細則左ノ通相定ム

明治十九年四月 大藏省令第十二號

高等官俸給支給細則

- 第一條 高等官ノ年俸ハ之ヲ四分シ二月五月八月十一月ノ四期ニ於テ之ヲ支給スルモノトス
- 第二條 俸給ノ支給ハ新任轉任増俸減俸共總テ發令ノ翌日ヨリ起算シ其當月分ハ日割ヲ以テ計算スルモノトス
- 第三條 廢官退官及死亡ノ時ハ當月分ノ俸給ヲ支給シ日割ヲ以テ計算セス
- 第四條 非職廢官退官ノ者事務引繼殘務取調ノ爲メ特ニ命ヲ承ケ公務ニ從事スルトキハ其間尙ホ從前ノ俸給ヲ給與ス
- 第五條 願濟休暇旅行ノ者及私事ノ故障(自己ノ病氣ヲ除ク)ニ由リ上應セサルモノ三十日以後ハ日割ヲ以テ俸給ノ半額ヲ減スルモノトス
- 第六條 病氣(轉地療養トモ)ニ由リ上應セサルモノ九十日以後ハ日割ヲ以テ俸給ノ半額ヲ減スルモノトス但公務ノ爲メ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタルモノハ此限ニアラス
- 第七條 優恩ニ由リ賜暇休養及暑中休暇ハ第五條及第六條ノ限ニアラス
- 第八條 兼官ノ増俸ハ其兼任職經費ノ内ヨリ支給スルモノトス
- 第九條 各應俸給ノ支給ハ左ノ日割ニ依ルモノトス但休日ニ當ルトキハ順延トス

四日	〔内〕 國務省	〔外〕 大藏省
五日	〔陸〕 軍省	〔海〕 軍省
	〔司〕 法省	〔文〕 部省
六日	〔農〕 務省	〔遞〕 信省
	〔元〕 老院	〔會〕 計檢査院

- 第十條 轉任ノ場合ニ於テハ發令ノ日マテ前任職ヨリ其俸ヲ支給スルモノトス
- 第十一條 轉任ノ時前任職ニ於テ俸給ノ過渡アルトキハ新任職ヨリ直チニ之ヲ前任職ニ返付ス
- 第十二條 降等減俸賜暇旅行病氣其他ノ事故ニ由リ俸給ヲ追徴スヘキモノアルトキハ次期ノ俸給ヨリ差引計算スルモノトス
- 第十三條 非職ノ時其追徴スヘキ金額ハ大藏省ヨリ發ニ支給シタル官廳ニ返付シ大藏省ハ次期ノ俸給ヨリ差引計算スルモノトス
- 第十四條 會計ヲ異ニスル應ヨリ官吏ヲ使用スルトキハ其間ノ俸給ハ日數ヲ以テ借用廳ヨリ該官吏所屬ノ廳ニ返付ス
- 第十五條 第五條ノ場合ト第六條ノ場合ト相續テ起ルトキ其第五條ニ始マリ第六條ニ終レハ其間通算シ九十日ノ後俸給ヲ減シ第六條ニ始マリ第五條ニ終レハ其間通算シ三十日ノ後俸給ヲ減ス
- 第十六條 日割計算ノ法ハ年俸十二分ノ一ヲ以テ一箇月分トシ其月ノ現日數ニ割合計

算スルモノトス

○高等官俸給支給細則附則

明治十九年四月
大藏省令第十五號

高等官俸給支給細則附則左ノ通相定ム

- 一新官制ニ依リ本年四月一日以前ニ任官ノモノハ總テ四月一日ヨリ起算シテ年俸ヲ支給ス同日以後任官ノモノハ其當日マテ其月ノ現日數ニ依リ日割ヲ以テ舊官俸給ノ額ヲ支給シ其翌日ヨリハ新官ノ俸給ヲ支給スルコト本則第二條ニ據ル但前官ナキモノハ總テ任官ノ翌日ヨリ起算シテ年俸ヲ給スルモノトス
- 一他所在勤又ハ出張ノ官吏ニシテ非職ヲ命セラレタルモノハ年俸ハ命令到達ノ日マテ在職俸ヲ支給ス
- 一他所在勤又ハ出張中廢官退官ノ時其命令到達ノ月マテハ尙ホ從前ノ俸ヲ給ス
- 一忌引ニ由リ上臈スル能サル場合ニ於テハ本則第五條及第六條ノ日數ニ算入セス
- 一優恩ニ由リ賜暇休養暑中休暇及忌引等ノ場合ト本則第五條第六條ノ場合ト連續スルトキハ其賜暇休養休暇又ハ忌引ノ日數ヲ除キ前後ノ日數ヲ計算シテ減俸スルモノトス

第三百一章 交際官並領事費用條例

明治十九年七月
勅令第四十九號

朕交際官並領事費用條例ノ改正ヲ裁可ス

御名 御璽

交際官並領事費用條例

- 第一條 海外在勤ノ公使領事以下官員ノ年俸ハ第一號表ニ照シテ之ヲ支給ス但任所若翌日ヨリ起算シ任所出發ノ前日マテ日割ヲ以テ支給ス
- 第二條 前領事參事官書記官赴任前許可ヲ得テ妻ヲ攜帶スル者及赴任後許可ヲ得テ妻ヲ以テ妻攜帶ノ俸給ヲ支給ス
- 第三條 出發前ノ俸給ハ新拜命ノ官員出發前滯京ノ日數ヲ六十日ト定メ第二號表ニ照シ通貨ヲ以テ支給ス妻攜帶ノ許可ヲ得タル公使領事參事官書記官ニハ其給額ノ二割増ヲ支給ス
- 第四條 前條ノ期限内ニ於テ任所替ヲ命セラレタル者ハ出發前ノ俸給ヲ六十日ニ分割シ前任所後任所ニ從ヒ支給ス又出發ノ延期ヲ命セラレタル者ハ六十日以後ハ第四號表公用滯京ノ項ニ照シテ支給シ病氣ニテ出發ノ延期ヲ願出タル者ハ同表差額歸朝ノ項ニ照シテ支給ス
- 第五條 出發前三十日以内ニ於テ免官セラレタル者及赴任ヲ免セラレタル者ハ出發前俸給ノ半額ヲ返納セシムヘシ又免官免任ノ期三十日以後ニ方レハ其給額ヲ六十日ニ割リ之ヲ返納セシムヘシ
- 其願ニ依リ赴任ヲ免セラレタル者ハ悉皆返納セシムヘシ

第六條 往返旅中俸給ハ本邦任所往返旅中上陸船料馬車代公用郵便電信料接待費等一切ノ諸雜費ニ充ツルモノトス

第七條 往返旅中俸給ハ現日數ニ拘ハラズ又赴任歸朝ノ途次交際或ハ貿易ノ景況視察ノ爲メ許可ヲ得テ他ノ地方へ巡回スルニ拘ハラズ第三號表本任所ノ項ニ就テ支給ス

第八條 養病歸省等願ニ依リ歸朝スル者ニモ亦前條ノ俸給ヲ支給スト雖モ任所ニ於テ免官ノ者ニハ之ヲ支給セズ

第九條 任所往返ノ途次命ヲ受ケテ他ノ公館等ニ巡回シ或ハ航行中非常ノ事故アリテ郵船ヲ待合セ又ハ某港ニ滞留スル者之カ爲メ第三號表中限日數ヨリ延宕スルトキハ外務大臣定ムル所ノ費額ヲ支給ス

第十條 甲地在勤ノ者乙地へ任所替ヲ命セラレタルトキハ旅中俸給トシテ甲地出發ノ日ヨリ乙地着任ノ日マテヲ算シ本邦任所往返旅中俸給ノ額ヲ日割トシ現日數ニ乗シテ支給ス

第十一條 公使領事交代スルトキ公使ハ解任狀捧呈謁見濟ノ日ヲ以テ事務ヲ引繼キ領事ハ新任領事到着ノ日ヨリ一週内ニ之ヲ引繼キ共ニ其當日ヨリ三週内ニ其任所ヲ發程スヘシ

第十二條 公使領事歸朝ヲ命セラレ又ハ歸朝ノ許可ヲ得或ハ任所替ヲ命セラレタルト

キハ其命令到達ノ日ヨリ三週内ニ事務ヲ其代理者ニ引繼キ任所ヲ發程スヘシ

第十三條 參事官書記官交際官試補書記生ノ交代并歸朝任所替發程期日ハ第十一條第十二條ノ例ニ同シ

第十四條 發程ノ延期ヲ命セラレタル者ノ外公館ノ公務ニ依リ發程ノ延期ヲ要スル者ハ外務大臣ノ許可ヲ得テ仍ホ一週間延期スルコトヲ得ヘシト雖モ此延期中ハ公使領事ニハ年俸二分ノ一參事官以下ハ年俸三分ノ二日割ヲ以テ支給ス

病氣其他事故ニ依リ出發ヲ延期セシ公使領事ニハ年俸三分ノ一參事官以下ニハ年俸二分ノ一日割ヲ以テ支給ス

第十五條 任所ヲ轉スル者ニハ事務引繼濟ニ拘ハラズ新任ノ年俸ヲ支給ス

第十六條 公使領事公用ニテ在留國內外ニ旅行スルトキ其代理ヲ任スルコトアルモ事務ノ引繼ヲ爲スニ及ハズ故ニ代理者ニ代理年俸ヲ支給セスシテ公館費用ハ公使領事ノ擔任トス

第十七條 公使領事任所不在中其代理者ニハ本任官發出ノ日ヨリ起算シ本官ノ年俸ヲ支給セス代理年俸ヲ支給ス本任官歸任スルカ或ハ新任公使領事到着スルトキハ事務引繼ノ日數ニ拘ハラズ翌日ヨリ代理者ニ代理年俸ヲ支給セス

第十八條 交代濟歸朝ノ後無任所外交官ヲ命セラレサル者ニハ着京翌日ヨリ百八十日ヲ限リ第四號表交代濟歸朝日當ノ項ニ照シテ日給ヲ支給ス此期滿レハ官吏非職條例ニ依リ非職ヲ命ス但非職俸ハ交代濟歸朝日當ノ三分ノ二ヲ以テ算出スヘシ

第十九條 在勤滿三箇年以上ニ彌リ外務大臣ノ許可ヲ得往復順路ノ日數ヲ除キ六箇月間賜暇歸朝ノ者ニハ若京翌日ヨリ第四號表賜暇歸朝ノ項ニ照シテ日給ヲ支給ス休暇期日ヲ過キ病氣其他ノ事故ニ依リ歸任ヲ延期スル者ニハ同表養病滯京ノ項ニ照シテ日給ヲ支給ス

第二十條 公用ニテ歸朝ヲ命セテレタル者及航海不便ノ港ニシテ毎歲冬季例ニ從ヒ閉館シ隨テ歸朝スル者ノ日給支給法亦前條ニ同シ

第二十一條 歸省養病等ノ許可ヲ得テ歸朝スル者ニハ若京翌日ヨリ第四號表養病歸朝ノ項ニ照シテ日給ヲ支給ス

第二十二條 臨時代理公使ニハ代理公使ノ年俸ヲ支給ス

第二十三條 貿易事務官其他特設ノ官名ヲ以テ領事ノ職務ヲ行ハシムル場合ニ於テハ其官等ニ應シ領事ノ例ニ照シテ年俸其他ノ支給ヲ爲スヘシ

第二十四條 公使領事以下死亡シタルトキハ第四號表一時賜金年俸三分ノ一ヲ給與ス海外ニ於テ死亡シタル者ニハ別ニ在勤年俸一箇月分ヲ支給ス

赴任前死亡シタルトキハ出發前ノ俸給ヲ返納セシムルニ及ハス

第二十五條 移轉費、交際費、事務所費、公館雇員費、妻并從者旅費、航行費、陸路費、在留國內外公用旅行雜費、公館借入、公館備付品科目買上代價并修理費、事務引續前後經費負擔ノ區分、公館經費、公館非常準備金其他計算等ニ關スル細則ハ外務大臣兩大臣ノ定ムル所ニ依ル

第一號

公使領事以下官員年俸表

特命全權公使 上級	英露佛米	獨伊澳蘭	滿	朝
特命全權公使 下級	千五百五十磅	千五百磅	七千五百圓以下	七千圓以下
同 二等	千四百五十磅	千四百磅	六千五百圓以下	六千五百圓以下
同 辦理公使 上級	千四百磅	千三百五十磅	六千圓以下	六千圓以下
同 辦理公使 下級	千四百磅	千三百五十磅	五千五百圓	五千五百圓
委任一等 代理公使 上級	千磅以下	九百五十磅	五千圓	五千圓
同 代理公使 中級	九百八十磅	九百三十磅	四千八百圓	四千八百圓
同 代理公使 下級	九百六十磅	九百磅	四千六百圓	四千六百圓
同 參事官 上級	八百五十磅	七百八十磅	三千八百圓	三千八百圓
同 參事官 中級	七百六十磅	七百四十磅	三千六百圓	三千六百圓

同 副領事 下級	同 副領事 上級	同 副領事 中級	同 領事代理 下級	判任 書記生 年俸一級	同 書記生 年俸二級	同 書記生 年俸三級	同 書記生 年俸四級
拾四百三 磅	拾四百貳 磅	四百拾 磅	四百磅	拾四百 磅	拾三百 磅	拾三百 磅	拾貳百 磅
四百拾 磅	四百磅	三百九 拾磅	五百七 拾磅	四百 磅	三百 磅	三百 磅	貳百 磅
圓千九百	圓千八百	圓千七百	圓千四 百	圓千八 百	圓千三 百	圓千三 百	圓千九 百
圓千八百	圓千七百	圓千六百	圓千九 百	圓千七 百	圓千三 百	圓千三 百	圓千九 百
圓千八百	圓千七百	圓千五百	圓千五 百	圓千七 百	圓千三 百	圓千三 百	圓千九 百
圓千九百	圓千八百	圓千六百	圓千四 百	圓千八 百	圓千三 百	圓千三 百	圓千九 百
圓千八百	圓千七百	圓千五百	圓千九 百	圓千七 百	圓千三 百	圓千三 百	圓千九 百

同 書記生 年俸十級	同 書記生 年俸九級	同 書記生 年俸八級	同 書記生 年俸七級	同 書記生 年俸六級	同 書記生 年俸五級
貳百 磅	貳百 磅	貳百 磅	貳百 磅	貳百 磅	貳百 磅
百八 拾磅	百九 拾磅	百九 拾磅	百九 拾磅	百九 拾磅	百九 拾磅
圓四百 五	圓五百	圓五百 五	圓六百	圓六百 五	圓七百
圓四百 五	圓五百	圓五百 五	圓六百	圓六百 五	圓七百
圓四百 五	圓五百	圓五百 五	圓六百	圓六百 五	圓七百
圓四百 五	圓五百	圓五百 五	圓六百	圓六百 五	圓七百
圓四百 五	圓五百	圓五百 五	圓六百	圓六百 五	圓七百

一歐米ハ英貨、亞細亞ハ銀貨、朝鮮國ハ紙幣ヲ以テ支給ス
 一△印ハ妻携帶費トス
 (明治二十年七月勅令第三十二號ノ追加ニ係ル分ハ書記官ノ上ニ圖ヲ冠ス)
 (明治二十一年七月勅令第五十三號ヲ以テ伯林メルボルン未蘭ブレイトマンノ一欄及附
 圖ノ地名ヲ追加ス)

同六等	同五等	同四等	同三等	同二等	委任一等	海上
四三十四 四十四 片三十四 志磅四	四一十五 八磅四十二 片六十四 志七四八	四一十六 志磅五十三 片三十四 志三三	四三十七 八磅六十三 片六十六 志四四八	四一九 志磅七十四 片八十七 志六八	四九〇 八磅九十五 片六十四 志三六	1000 ノ プロ
磅四十二 十片九 志一四	八磅四十二 片十 志八	四磅五十二 片三 志五	磅六十三 片三 志五	片六十八 志八	四磅九十五 片三 志五	メ ン ボ
四磅四十二 片三 志二	四磅四十二 片三 志九	志磅五十三 片三 志六	志磅六十四 片三 志七	志磅八十四 片三 志八	磅九十五 片三 志七	メ ン ボ
磅三十二 十片六 志三	磅四十二 片二 志二	磅四十二 片二 志八	磅五十二 片二 志七	磅七十四 片二 志二	志磅八十四 片二 志九	馬 耳 塞
志磅三十二 片八 志八	磅四十二 片三 志九	磅四十二 片三 志九	八磅五十二 片六 志八	磅七十四 片四 志二	志磅八十四 片四 志三	未 開
八磅六十二 片六 志五	磅四十二 片七 志九	磅四十二 片四 志〇	四磅四十二 片四 志四	四磅四十二 片三 志九	八磅五十二 片三 志八	和 港
八磅六十二 片六 志一	四磅四十二 片三 志八	志磅二六 片三 志八	志磅二六 片三 志八	志磅三六 片三 志九	八磅五十二 片三 志八	和 港
磅二七 十片四 志四	志磅二七 片三 志八	磅三十八 片三 志九	志磅三十八 片三 志九	志磅四十二 片三 志八	八磅五十二 片三 志八	直 行
片六十四 志八	片六十四 志八	十六 志九	十六 志九	志磅三十三 片三 志八	四磅五十二 片三 志八	港 香
四九十三	四二四	四九五	四九五	四四七	四九八	新 嘉 坡
七六	九七	四九	二四	十	四八	天 津
八七	四九	四九	四三	四六	四九	汕 頭
三六	五七	八八	四六	四三	四八	福 州
九四	四七	三八	九四	四二	四八	寧 波
九五	四七	三八	九四	四二	四八	京 城
五五	五七	四七	二九	五〇	四八	マ ニ ラ
一四	一六	二四	六八	四七	四八	元 山
九三	七四	五五	六六	二八	九九	廣 東
九三	七四	五五	六六	二八	九九	廣 東

(明治二十一年七月勅令第五十三號ヲ以テ委任五等ノ欄ニ書記官ノ三字ヲ加フ)

道各	同	同	同	同	同	同
任	記	記	記	記	記	記
所	十級	九級	八級	七級	六級	五級
概	年	年	年	年	年	年
定	俸	俸	俸	俸	俸	俸
片	生	生	生	生	生	生
五十三日	三二 志十 四片	二二 志十 四片	二二 志十 四片	二二 志十 四片	二二 志十 四片	二二 志十 四片
五十八日	三二 志十 四片	二二 志十 四片	二二 志十 四片	二二 志十 四片	二二 志十 四片	二二 志十 四片
五十九日	三二 志十 四片	二二 志十 四片	二二 志十 四片	二二 志十 四片	二二 志十 四片	二二 志十 四片
三十三日	六二 志十 四片	六二 志十 四片	六二 志十 四片	六二 志十 四片	六二 志十 四片	六二 志十 四片
五十五日	三二 志十 四片	三二 志十 四片	三二 志十 四片	三二 志十 四片	三二 志十 四片	三二 志十 四片
四十七日	三二 志十 四片	三二 志十 四片	三二 志十 四片	三二 志十 四片	三二 志十 四片	三二 志十 四片
五十五日	三二 志十 四片	三二 志十 四片	三二 志十 四片	三二 志十 四片	三二 志十 四片	三二 志十 四片
五十三日	三二 志十 四片	三二 志十 四片	三二 志十 四片	三二 志十 四片	三二 志十 四片	三二 志十 四片
二十五日	四九 志十 四片	四九 志十 四片	四九 志十 四片	四九 志十 四片	四九 志十 四片	四九 志十 四片
十五日	四九 志十 四片	四九 志十 四片	四九 志十 四片	四九 志十 四片	四九 志十 四片	四九 志十 四片

シ翌日より起算支給スヘシ(明治廿年三月外務省令第一號ヲ以テ本項ヲ追加ス)

第二條 妻携帶ノ公使領事參事官書記官等御用有之歸朝被命任地出發ノ際其妻病氣其他不得已事故有之同伴シ難キトキハ其事情ヲ具シ其妻ノ出發延期ヲ外務省ヘ申請スヘシ外務省ニ於テ右ノ申請ヲ至當ト認ルトキハ其夫任地出發スルモ妻尙滞在スルトキハ妻携帶費ヲ支給スルコトアルヘシ

第二章 出發前俸給

第三條 條例第三條出發前俸給ハ始テ在勤ヲ命セラレタル者ニ限り支給シ歸朝中他所ヘ在勤替ヲ命セラル、モノハ滯京日給ノ外ニ海外移轉費ヲ給シ出發前俸給ヲ給セス尤歸朝滯京中奏任ヨリ勅任ニ轉シ再ヒ赴任スル者ハ始メテ在勤ヲ命セラレタルモノ、例ニ依リ出發前ノ俸給ヲ支給スヘシ

第四條 公使領事參事官書記官在勤中許可ヲ得テ妻ヲ呼寄スル者ハ官等相當ノ出發前俸給ノ二割増ヲ支給ス可シ

第三章 旅中俸給

第五條 條例第九條ノ場合ニ於テ旅中ノ日數定期ヲ超ユルトキハ外國ニ在テハ乙號表旅行雜費內國ニ在テハ本例第四號表御用滯京ノ日給ヲ其日數ニ應シ支給スヘシ

第四章 任所替移轉諸費

第六條 在勤先ニ於テ任所替ヲ命セラレタル者ハ條例第十條俸給ノ外移轉諸費トシテ

テ丙號表ノ金額ヲ支給スヘシ

第五章 交際費及事務所費渡切

第七條 參事官書記官等ニテ公館事務ヲ擔任スルモ臨時代理公使ノ名義ナキ者ハ代理年俸ヲ賜ハラス交際費トシテ公使館ハ一箇年六百圓又領事館書記生ニテ領事館ノ事務ヲ擔任スルモ領事代理ノ名義ナキ者ハ手當トシテ同三百圓月割(十五日前後ヲ區別ス)ヲ以テ支給ス其他公館ノ費用ハ總テ官金ヲ以テ現費仕拂フヘシ尤モ公使領事不在中ト雖モ公館ノ費用ヲ公使領事ニテ擔任スルトキハ此限ニアラス

第八條 副領事ニテ總領事又ハ領事管轄內ノ一地ニ常住シテ事務ヲ擔任スルトキハ事務扱所借料其他一切ノ公費トシテ一箇年五百圓以上貳千五百圓以内ノ金額月割ヲ以テ(十五日前後ヲ區別ス)支給シ精算ニ及ハス

第九條 各領事館ニ於テ其事務多端或ハ事故アリテ特ニ臨時交際費用ヲ要スルトキハ五百圓以上千圓以内ノ金額ヲ臨時給與スルコトアルヘシ

第十條 歐洲在勤ノ公使兼任國ヘ滯留スルトキハ旅行雜費ノ外臨時交際費トシテ兼任地着翌日より同地出發前日迄ヲ限リ一日英貨壹磅ヲ其日數ニ應シ支給スヘシ

第六章 公館雇人

第十一條 公館ニ於テ事務ノ都合ニヨリ書記通譯等ノ爲メ外國人ノ雇入ヲ必要トナストキハ一館ニ一人ヲ限り許可シ其書給料ハ外務省ニ於テ之レヲ定ム依テ雇入ノ節ハ其事情及給額ヲ定メ前以テ外務省ヘ申請スヘシ但雇入ノ事情ニヨリ申請ノ暇ナキト

キハ一時月期ヲ以テ雇入其情狀具ニ外務省へ申出ヘシ勿論假雇間ノ給料公使館ハ一箇月四百圓以内領事館ハ同貳百圓以内タルヘシ

第十二條 公館屬員ノ内不時缺員アルトキノ外公館使用ノ爲メ我國人ヲ雇入ルコトヲ許サス但雇間ノ給料ハ歐米各國ニ在テハ一箇月英貨貳拾磅以内亞細亞地方ハ銀貨五拾圓以内タル可シ

第七章 妻并從者旅費

第十三條 許可ヲ得テ妻ヲ携帶スル者ニハ任所往復在勤中兼任國往復并任所替ノトキニ限り妻ノ旅費トシテ甲號表ニ照シ航行費ノ一等陸路費ノ上等ヲ支給スヘシ

第十四條 許可ヲ得テ從者一人ヲ携フル者公使ニハ任所往復及在勤中兼任國往復並任所替ノトキ領事參事官書記官ニハ任所往復並任所替ノトキニ限り其從者ノ旅費トシテ甲號表ニ照ラシ航行費ノ二等陸路費ノ中等ヲ支給スヘシ

第十五條 妻並從者ニシテ其夫又ハ其主ト同行シ難キ事故アリテ單行スルトキハ任所往復一次ニ限り航行費及陸路費支給スヘシ

但御用歸朝及賜暇歸朝ノ節ハ其都度之レヲ支給スヘシ

第十六條 公館附雇書記外國人公用ニテ在留國內外及公使兼任國ニ旅行スルモ妻并從者ノ旅費ハ支給セサルヘシ

第八章 航行費並陸路

第十七條 航行費並陸路費ハ船車賃旅具運接費船人足賃等一切ノ諸雜費ニ充ル者トス

第十八條 旅行費並陸路費ハ赴任歸朝ノ途次交際或ハ貿易ノ景况視察ノ爲メ許可ヲ得テ他ノ公館等ニ巡廻スル者ニモ甲號表定所ノ外支給セス

第十九條 任所往復ノ途次命ヲ受ケテ他ノ公館等ニ巡廻スル者ニハ迂廻ノ距離ニ準シ航行費並陸路費ヲ支給スヘシ

第二十條 養病歸省等願ニ依リ歸朝スル者又ハ任所ニ於テ願ニ依リ免官スル者ニハ航行費並陸路費ヲ給セス

第二十一條 歸省願濟日數滿チ或ハ病氣全快歸任ノ際公用ニテ滞在ヲ命セラレ出發ヲ延期セシムル者ハ歸任一次ノ旅費ヲ支給ス

第二十二條 東京外ニ於テ拜命直ニ赴任スル者ノ旅費ハ現費支拂ノ精算ニ依テ支給スベシ但私屬荷物運賃勲任ハ七十貫目委任ハ五十貫目判任ハ三十五貫目迄官費ヲ以テ支給ス

第二十三條 官船或ハ官ノ備船ニテ任所ニ往復スル者ハ航行費ヲ給セス官船乘組賄料トシテ勲任ハ一日壹圓五十錢委任ハ同壹圓貳拾錢判任ハ同九拾錢ヲ支給ス但官仕賄ノ節ハ之レヲ給セス

第九章 在留國內外公用旅行雜費

第二十四條 旅行雜費ハ旅中賄料接待費馬車船人足賃公用郵便稅等一切ノ諸雜費ニ充ツルモノトス

第二十五條 旅行雜費ハ公使領事以下命ニ依リ其在留國內外ヲ旅行スルトキ任所出發ノ日ヨリ歸日ノ日迄(航行費ヲ要スル日數ヲ除ク)ヲ算シ年俸ノ外乙號表ニ照ラシ

其日數ニ應シテ之ヲ支給スヘシ但往復一日ノ者ニハ之レヲ給セス

第二十六條 順路ノ船車賃ニシテ甲號表ニ定額ナキモノハ實費ヲ支給ス但實費支給ノ精算帳ニハ其金額及旅次ノ順路及發着日限ヲ記載シ其館ノ長官捺印シタル證明書ヲ添フヘシ

第二十七條 旅行雜費ハ出張先ニ週間(着翌日ヨリ起算ス)ヲ限リ全額ヲ支給シ二週間後ハ其事情已ムヲ得スト認定スルトキニ限り期日後ト雖モ仍ホ全額ヲ支給スルコトアルヘシ

第二十八條 前條旅費等請求ノ節ハ任地出發ヨリ各地着發及滞在ノ日時等明記シタル旅中經歷書ヲ勘定書ニ添ヘ差出スヘシ

第二十九條 在勤者ノ内事務ノ都合ニヨリ外務省ノ許可ヲ得テ甲廳ノ官員ヲシテ乙廳ニ至リ其事務ヲ執ラシムルトキハ其俸給ハ甲廳ヨリ旅費並旅行雜費ハ乙廳ヨリ支給シ留勤中ハ旅行雜費ヲ給セス但乙廳留勤中其廳ノ公用ニテ旅行スルトキハ其廳ヨリ旅費並旅行雜費ヲ支給スヘシ

第三十條 在哥爾薩港領事館管內漁場巡廻中日數ニ應シ旅行雜費ヲ支給シ且船道具及運輸人馬賃等現場仕拂官費タルヘシ

第十章 公使領事以下恩給并一時賜金

第三十一條 公使領事以下ノ恩給并一時賜金ヲ算出スヘキ年俸額ハ本例第四號表恩給并一時賜金ヲ算出スヘキ年俸額ニ依ル

第三十二條 公使領事以下海外ニ於テ死亡セシトキハ埋葬墓碑ノ費用ハ官ヨリ之レヲ

支給ス

第十一章 公館借入及移轉

第三十三條 公館ニ充ツル爲メ借入ル、家屋ノ借料ハ年々定ムル所ノ豫算額ヲ超ユヘカラス若シ此定額ヲ超ユルトキハ其超過ハ公使領事ノ自辨トス但此條例發行前既ニ借入レ約定ヲ結ヒタル家屋ニシテ借料定額ヲ超エタルモノハ其期限迄ハ條約ニ隨ヒ支給スヘシ

第三十四條 公館借入條約ハ正副二通ト爲シ其副書ヲ外務省ヘ差出スヘシ

第三十五條 公館ノ爲メ借入ル、家屋ハ備付什器ナキ家屋トス若什器アル家屋ヲ借受ケ夫レカ爲メ定額ヲ超過スルトキハ公使領事ノ自辨トス

第三十六條 公館移轉ノ際新舊兩館ノ借料重複スルトキハ一箇月ニ限リ官費ヲ以テ之レヲ仕拂ヒ其餘ハ公使ノ自費トス

第三十七條 公館ノ移轉ニ依リ手数料謝金其他新館ノ窓掛ケ敷物等總テ移轉ヨリ生スル費用ハ公館經費ヲ以テ支辨スヘシ若シ移轉ノ爲メ定額外ノ費用ヲ要スルトキハ其事由ヲ詳細外務省ヘ具狀シ費用支出ノ許可ヲ得タル後ニ非サレハ移轉スヘカラス此許可ヲ得スシテ定額ヲ超過スルトキハ其超過ハ公使領事ノ自辨トス

第十二章 公館備付品科目買上代價額並修理

第三十九條 公館備付品科目ハ丁號表ニ依ル

第四十條 公館諸什器買上代定額ハ歐米公使館ハ銀貨一万五千六百圓清國公使館ハ同
一万三千七百圓朝鮮國公使館通貨一万二千圓領事館ハ總テ銀貨四千圓(朝鮮國領事
館ハ通貨)公館創立ノ際一度限り之レテ支給スヘシ

第四十一條 公館備付ノ諸什器ハ官費ヲ以テ修理若クハ買足ヲ爲シタルモノト公使領
事ノ自費ヲ以テ修理スヘキモノヲ分テ什器目錄ヲ製シ其一冊ハ外務省ニ差出シ一冊
ハ公館ニ備置キ物品検査ノ用ニ供スヘシ故ニ物品缺損アルカ又ハ買足等ノ爲メ員數
ニ増減ヲ生スルトキハ其時々外務省ヘ報告ノ上目錄帳ヲ加除スヘシ

第四十二條 公館備付什器ノ官費修理ハ其定額ヲ超ユヘカラス若シ之レヲ超ユルトキ
ハ其超過ハ公使領事ノ自費トス但年曆ヲ經タル等ニテ修理費定額ニ超過スヘキトキ
及公使領事自費ヲ以テ修理スヘキ什器ニテモ年曆ヲ經タル爲メ其自力ニ及難キ巨多
ノ費用ヲ要スルトキハ其事由ヲ詳細外務省ニ具申スヘシ外務省ニ於テハ其申請ヲ至
當ト認ムルトキハ公使館ハ銀貨貳千圓(朝鮮國ハ通貨)以下領事館ハ同八百圓(朝鮮
國ハ通貨)以下ノ修理費若クハ買足料ヲ支給スルコトアルヘシ

第四十三條 公使館庖廚具及庶諸雜具ノ費用トシテ銀貨五百圓(朝鮮國ハ通貨百圓)
公使初赴任ノ節一度限り支給シ精算ニ及ハス

第十三章 公館經費

第四十四條 公使領事館ノ經費ニ立ツヘキ各件左ノ如シ

一 雇人料ノ内

公使領事館雇人料 裁判所及薩衛并警察所ニ使役
スル押丁并小使雇料ニ限ル

一 器具及圖書費ノ内

器具 丁號表一類備付ノ内公務所
書房具ヲ除キ其他ノ諸器具
朝鮮國領事館ニ限ル

書籍地圖

製本費

一 被服費ノ内

巡查徽章帶具費 徽章、帶劍、捕繩、
手帖、呼子籠等
(清國并朝鮮國ニ限ル)

一 通信運搬費ノ内

電信料

運搬費

保險料

一 地所家屋借料

公館借料

公館用地借料

一 雜費ノ内

諸謝金

公館借入或ハ購買等ノ節其約定書ニ付其地法律家ノ檢閱ヲ依頼スルトキ又ハ臨時公館ヨリ
訴訟若クハ要求ヲ爲サシムルヘカラサル場合ニ於テ其地ノ法律取調ニ關シ代官人ニ依頼スル
トキニ限ル

廣告料

諸手數料

道路疏水手當及家屋地稅等

火災保險料 公館、公館備付器具

爲換料

印紙料

一修繕費

家屋修繕費 帝國政府ニ屬スル家屋ノ修繕又ハ借家ナレハ契約書ニ依リ貸主ニ於テ負擔セサル修繕ニ限ル

一裁判及囚徒費

警察及護衛費 但巡查死傷手當并賄料ニ限ル

右實費精算スヘキモノニ付證書ヲ添ヘテ之レヲ證明スヘシ

一雇人料ノ内

公使館雇人料 僕長、取者、馬車附添、門番、公務所小使、芝園番、轎夫等

一器具及圖書費ノ内

新聞雜誌類 内外各種ノ新聞、雜誌、アルマナック、テイレントレ、人員録、路程表等ノ類

一筆紙墨文具

用紙 各種ノ日本紙、西洋紙、計算表用紙、附封筒等一切ノ紙類 但算引公館記名印刷費等

筆墨印肉類 各種ノ筆類、常用墨、朱墨、墨汁、給ノ具、白墨、印肉等ノ類

硯小道具類

硯石、硯箱、墨壺、墨汁入、同蓋、圓引道具、石盤、研盤、水入、糊入、肉池、給ノ具、筆筒、筆架、文鏡、鉄盤、小刀、鍍金、留針、字消子、刷毛、海綿、復寫版、其他文房一切ノ諸具新規買入並修費共

諸帳簿

新規修補費

一消耗品

薪炭油茶類 朝鮮國醫術所及警察所ニ限ル

雜品 糊、封蠟、付木、除蟲藥品、齒類、線、掃帚、糊、封蠟等ノ類

一被服費ノ内

雇人被服 前項ニ細記スル雇人ノ仕被セ衣服、冠物、手袋、雨具、靴ノ類

一通信運搬費ノ内

公用郵便稅 一切ノ郵便費、不足稅及郵便發送ノ爲メニ要スル費用等

一雜費ノ内

舟車馬類雇賃 舟、馬車、借馬、雜乘物等ノ類 但領事館ハ船舟雇賃ニ限ル

馬飼料 飼食費、馬毛刈料、蹄鐵打替、馬匹治療費等但公使館ニ限ル

一宴會費

天長節其他交際ニ係ル宴會諸費 但領事館ハ天長節ニ限ル

右費用ハ一箇年定額ヲ十二分シ一箇月毎ニ各科目定額ノ高ヲ拂ニ立テ過不足ヲ問

ハス渡切ノ分ニ付證書ヲ添ユルニ不及又明細品名ヲ掲クルニ不及

右月費精算ノ事

但此箇條ニ明文ナキ費用ハ公使領事ノ自辨タルヘシ

第四十五條 經費金ノ内定額金ヲ以テ渡切ノ費用ハ不足アルモ追給セス又餘リアルモ返納ニ及ハス其定額金ヲ以テ彼此流用支辨スヘシ

第四十六條 經費金ノ内實費精算ノ分ハ年々外務省ヨリ通知スル處ノ豫算ニ基キ支出シ各科目ニ就テ超過セザランコトヲ豫計スヘシ

第四十七條 公館經費ノ内定額ヲ以テ渡切ノ分ハ公使領事交代ノ節事務引繼濟ノ當日ヲ以テ區分シ日割計算スヘシ

第十四章 公館非常準備金

第四十八條 公使館ハ銀貨五千圓(朝鮮國ハ通貨四千圓)領事館ハ總テ同三千圓(朝鮮國ハ通貨)迄ハ非常已ムヲ得サルトキニ限リ公使領事ニ於テ大藏省預ケ金ノ内或ハ預ケ金無之場所ハ其他ノ銀行ヨリ借入ル、コトヲ得ヘシ右ハ公館職員等ノ定員ニ缺員アルトキ一時雇員費及漂民窮民貸與費患者費埋葬費等ノ如キ定額外臨時ノ仕拂ニ充テ至急外務省ニ報告シ償還ノ手續ヲ爲スヘシ但公館所在地ニ於テ借金スヘキ銀行ナキトキハ本文ノ金額ヲ豫メ送致シ置ヘシ

第四十九條 右準備金ハ大藏省ノ主管ナルヲ以テ借入等ノ手續ハ同省ノ通知ニ據リ取扱フヘシ

第十五章 回送金

第五十條 各公館經費金ハ其年額ヲ四季ニ割毎季節前大藏省ヨリ各公館ニ送達シ右送金ニ對スル明細ノ仕譯書ハ外務省ヨリ之レヲ送付スヘシ

第五十一條 前條ノ送金ヲ受取タルトキハ直ニ大藏省金庫局長宛領收證書ヲ發シ其旨外務省ヘ報告スヘシ

第十六章 經費金出納

第五十二條 在勤員年俸ハ三箇月分ヲ其中間ノ月ノ初日(假令ハ一月ヨリ三月迄ノ分ハ其二月ノ初日ニ於ケル如シ)ニ渡方取計ヒ經費金ハ第十三章ノ科目ニ照ラシ支出シ現金受拂簿等ヲ設ケテ之レカ出納ヲ明瞭ニスヘシ

第五十三條 常費外臨時費用ヲ要スルトキハ專ノ大小ヲ不論總テ外務省ヘ申請シ許可ヲ受クヘシ但非常急場ヲ要スルトキハ此限ニアラス

第五十四條 公館經費金ハ他費ヘ繰替支出スルコトヲ許サス万一非常ノ場合ニ際シ一時繰替ヲ爲サ、ルヲ得サルトキハ直ニ繰替勘定帳ヲ以テ外務省ヘ報告シ償還ノ手續ヲナシ本拂ノ分ト混用スヘカラス

第十七章 經費金勘定

第五十五條 每一箇月其出納スル處ノ金員科目及專要ヲ摘記シタル精算書ヲ雛形ニ倣ヒ調製シ翌月十五日迄ニ其地ヲ發シ外務省ニ送付スヘシ但實費精算ノ分ニ對シテハ正當請取證書寫或ハ事故アリテ請取證書ナキ分ハ其事故ヲ記シタル其館長官ノ證明書ヲ添ヘ又渡切ノ費用ハ其館長官ノ領收證書ヲ添付スヘシ

第五十六條 甲月ニ買入レタルモノ或ハ甲月ニ属スヘキ費用ヲ乙月ニ於テ仕拂フコトヲ得ルト雖モ其勘定帳ヲ製スルニハ乙月ニ於テ現實仕拂タルニ拘ハラス甲月分ノ勘

定帳ニ記載スヘシ但シ借家料及保険料ノ類前拂後拂等ノ約定アルモノハ此限ニアラズ

第五十七條 各館ニ於テハ每一月其出納スル所ノ現金受拂計算書ヲ別紙雛形ニ據リ調製シ毎月精算書ト共ニ外務省ヘ差出スヘシ

第十八章 收入金及返納金

第五十八條 旅券其他諸手数料及不用品拂下代金等總テ收入金ハ一箇月分取纏メ兼テ外務省ヨリ回付シアル明細仕譯書用紙ニ書載セ外務省及各主管廳ヘ報告シ現金ハ其館ニ監守大藏省ノ指揮ニ隨ヒ處分スヘシ

第五十九條 公使領事以下官員歸朝スルカ或ハ任所替ヲ命セラレタルトキハ兼テ回付シタル本人年俸金ニ對シ過不足ヲ精算シ無遲滯外務省ヘ報告スヘシ尤殘餘アルトキハ預リ證書ヲ以テ返納ノ手續ヲ爲スヘシ但任所替ノ者ハ便宜之ヲ新任所ヘ轉送スルモ妨ケナシ

第六十條 年度末ニ至リ經費金等殘餘ヲ生スルトキハ預リ證書ヲ以テ其年度末勘定帳差出ノ節共ニ返納スヘシ

第十九章 雜

第六十一條 官金ハ其公館ヘ堅牢ナル器物ヲ備ヘ貯藏スルカ或ハ信用アル銀行ヘ預ケ置ク等便宜ニ任スト雖モ銀行ヘ預ケ入ル、トキハ其銀行名等豫テ外務省ヘ報告スヘシ

第六十二條 備付什器等不用ニ屬シ拂下ケヲ爲ストキハ其品名及原價ヲ付シ前以テ伺出ヘシ但拂下ケ代金ハ他費ヘ仕用スルヲ許サズ

第六十三條 公使領事館ヘ各省廳ヨリ依頼スル注文品代價ハ其依頼廳ノ通知額ヲ目途ニ其地最寄ニアル正金銀行支店ヨリ金額ヲ引出シ依頼廳ニ向キ逆爲換ヲ取組之レカ償還ノ手續ヲナシ經費金等ヲ以テ繰替ヲ爲スヘカラス

第六十四條 清國或ハ朝鮮國ニ在ル公使館若クハ領事館ニ雇ノ名義ヲ以テ在勤スル者ハ費用條例ニ據ラス左ノ通支給ス

- 一 在勤俸給ハ時々之レヲ定ム
- 一 本邦ニテ拜命ノ者ニ限リ出發前支度料トシテ在勤俸ノ一箇月分ヲ支給ス
- 一 滯京及旅中ノ俸給ハ在勤俸ノ半額トス
- 一 航費ハ費用條例中定額アル分ハ右ノ二等ヲ給シ定額ナキ分ハ中等若クハ中等ナキトキハ下等船車賃等實費ニ基キ支給スヘシ但私用荷物運賃ハ二十貫目迄ヲ限リ官費支給スヘシ
- 一 航海中ノ日當ハ金六拾錢ヲ給ス但官船ニテ渡航ノ節ハ右日當ノ外賄料トシテ一日金六拾錢ヲ支給スヘシ
- 一 内地滯在中ハ日當金三拾五錢ヲ支給シ前款ノ航海日當ハ支給セス
- 一 外國諸港ニ滯在スルトキハ一般旅費定則等外ニ準シ旅舍賄料(朝鮮國ハ)一日金七十錢ヲ支給スヘシ

